



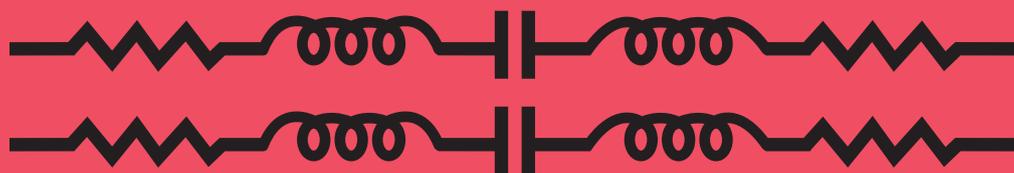
科会HP

岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 72 号

2026 年 3 月 発行



目 次

会長挨拶	会長 柳橋 好子	1
熱海宏侖先生追悼		
ご略歴		2
熱海宏侖先生の思い出	工藤 隆男	3
熱海宏侖先生の思い出	柏葉安兵衛	4
齋藤弘先生追悼		
ご略歴		5
齋藤弘先生を偲ぶ	佐々木和彦	6
齋藤弘先生の思い出	狩野 利之	7
退職された先生からの寄稿		
A I とグラフィックス	佐藤 信	8
電気電子・情報通信コースの近況	電気電子・情報通信コース長 西館 数芽	10
情報系コースの近況	情報系コース長 松山 克胤	11
令和7年度総会特別講演		
科会という「つながり」について思うこと	小笠原清人	12
草刈賞		
第20回（令和6年度）草刈賞受賞者	木谷 頼斗	14
草刈賞について		14
東京支部からの寄稿		
ある高齢者の 昨日今日明日	金田 重憲	15
歩くことが楽しくて	中山 靖茂	16
探究心を原動力に－キャリアの転機を振り返って－	若菜 裕紀	17
大学での学び、思ったより役に立つ	高橋 真子	18
《支部だより》令和7年度東京支部報告	狩野 利之	19
令和7年度仙台支部報告	田中 利光	20
令和7年度盛岡支部報告	吉田 英夫	21
令和7年度岩手大学電気電子情報科会総会・総会議事録		22
令和6年度決算書・令和7年度予算書		23
令和6～7年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		24
令和7年度理工学科電気電子情報系コース教職員名簿		25
総会添付資料・理事会議事録		26
令和7年 年表		29
岩手大学電気電子情報科会会則		31
トピックス・編集後記		32
令和8年度総会のご案内		第3表紙
メールアドレス登録・更新のお願い		第4表紙

ご 挨拶

会長 柳橋好子（昭和 45 年電子卒）



みな様におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

いつも岩手大学電気電子情報科会の活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

令和 7 年は各地で「熊」の出没が相次ぎ大騒ぎとなりました。盛岡でも市内中心部の中津川や銀行の駐車場などにあらわれ、また大学にも侵入して休講になったことなど全国ニュースになりましたので、会員のみな様からご心配の連絡をいただきました。岩手県や秋田県などで、悲しい人的被害も報告されていますから油断はなりません、冬になって「熊が出ました」の放送が聞かれなくなり、穏やかに冬眠してくれていることを願うばかりです。

今年は午年、チャグチャグ馬コの里、滝沢市の蒼前神社では元旦に着飾った馬たちが初詣に集まりました。今年のチャグチャグ馬コは 6 月 13 日です。例年以上ににぎわうのではないかと想像しております。

「きたかみ」72 号をお届けできることを嬉しく思います。

昨年の 71 号に間に合わなかった熱海宏信先生（昭和 36 年電気卒）の追悼文をお寄せいただきました。

また、令和 6 年 2 月 8 日に齋藤弘先生（昭和 34 年電気卒）がお亡くなりになりました。熱海先生、齋藤先生ともに科会発展に一方ならぬご尽力をいただき、感謝とともに心よりご冥福をお祈りいたします。お二人の追悼文をお寄せいただいたみな様に御礼申し上げます。

さて、この会長挨拶で歴代の会長が必ず触れているのが年会費納入のお願いと草刈賞の説明です。本会が理工学部内でも最も活発な活動を 84 年間続けてこられたのも会員のみな様のご協力、応援と会費納入があつてのことです。年 1000 円として 10 年に一度 1 万円の年会費納入をお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。本年は会費とともにご寄付もいただきました。ありがとうございます。

草刈賞はみな様のご寄付などで今のところ基金が枯渇することもなく、最初に作ったメダルが残りわずかとなったので追加発注しております。今後も電気系学生のユニークな活動を支援していく所存です。

昨年暮れには働き盛りの方たちの体調不良のお知らせが続きました。気候変動も激しい中ですので、くれぐれもご自愛いただき、みな様のご活躍とご健康をお祈りしてご挨拶いたします。

熱海宏信先生を偲んで

熱海宏信 先生



ご 略 歴

昭和12年 3月24日	盛岡市加賀野新小路で誕生
昭和18年 4月	盛岡市立城南小学校入学
昭和24年 4月	岩手中学校入学
昭和30年 3月	岩手高等学校卒業
昭和32年 4月	岩手大学工学部電気工学科入学
昭和36年 3月	同上 卒業
昭和36年 4月	株式会社横河電機製作所入社 工計研究部勤務
昭和42年 6月30日	同上 退社
昭和42年 7月 1日	岩手大学助手（工学部）に採用
昭和49年12月 1日	岩手大学講師（工学部）
昭和50年 4月 1日	岩手大学大学院工学研究科担当
平成14年 3月31日	定年退職
令和 6年 7月15日	逝去 享年88



熱海宏信先生の思い出

工 藤 隆 男 (昭和 51 年電子卒)

はじめに、熱海宏信先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生がお亡くなりになられたこととお聞きしたのは、今年の7月に盛岡市で初めて行われた昭和51年卒同期会にご参加くださいました柏葉安兵衛先生からでした。熱海先生からは卒業後、毎年年賀状をいただいていた。数年前にいただいた年賀状に年賀仕舞いの挨拶が記されていました。が、まだまだお元気でいらっしゃるかとばかり思っておりましたので、突然のお話に本当に驚きました。

さて、熱海先生を偲び、追悼の記事を書かせていただくとしても、卒業研究生として過ごさせていただいたのはもうすでに50年も前のことですので記憶はかすかなものばかりです。その中から熱海先生の思い出をご紹介させていただくことで追悼の記事とさせていただければ幸いです。

熱海先生の研究室は、電子管及び電子回路学講座第2研究室とか言うような名前で、電気棟2階の中程にあったと思います。ドアから入ってすぐ右側にお茶飲み場があり、窓からは工学部正門が見えていました。先生の机は窓際の右がわの方にあり、我々卒業研究生4名の机はパーティションを挟んで左側でした。

前期には論文輪読が週一回あり、熱海先生も我々学生もそれぞれの椅子をそんなに広くはない研究室の中央付近に持ちより、膝を交えながら論文の意味について順番に紹介しあったように記憶しています。準備段階でどうしても読解できない部分については、あらかじめ先生にご助言を仰いだり、関連資料をご紹介いただきながら、四苦八苦しました。

後期は卒業研究でしたので、各々のテーマに

沿った資料読解と発表、関連する諸々の実験、まとめの卒業研究発表でした。卒業研究の内容は、あらかじめ用意されているいくつかの状態間を確率的に遷移する回路を作るというものでした。先生から渡された論文の意味はなんとか理解でき、論文内容の発表も無事に終え、いよいよ残すは回路製作でした。先生からの「隣の第一研究室にいる技術職員の佐藤清忠さん（後に一関高専）に相談してみたらいいと思うよ。ICやマイコンなどの使い方についてヒントを得られるはずだから。」と言うお言葉に従い、佐藤さんのご指導を頂きつつ、TTL ICハンドブックを精読し回路を設計・製作し、無事に動作を確認できました。

熱海先生のご指導は、決して叱咤激励タイプではなく、要所要所でご指導下さいながら学生を見守るタイプでした。定期的に設定される中間報告などの締切を守らないとその理由を問われ、理屈が通らなければ注意をいただくこともありましたが、そこさえ守れば、学生の都合をよく理解してくださいました。また、発表会で上手く出来たなと思っていると、先生から「分かりやすい発表だったね」と言うお褒めのお言葉をかけてくださることもあり、益々やる気になったことを思い出します。

熱海先生のもとで経験できた「学生の主体性を信じて待つ指導方法」と、卒業研究を通じての「企画・調査・設計・製作」の具体的な経験は、その後就職した八戸高専において定年退職するまで一貫して大いに役立ちました。これらは皆、熱海先生の暖かいご指導の賜物でありますことをここに記し、追悼の記事とさせていただきます。

熱海先生、本当にありがとうございました。



熱海宏信先生の思い出

柏 葉 安兵衛（昭和38年電気卒）

私が^{あつみ こうきち}熱海宏信先生に初めてお目にかかったのは、昭和43年（1968年）4月に岩手大学工学部電子工学科に赴任したときでした。先生は前年の7月1日に横河電機製作所（工計研究部）から岩手大学に着任され、41年に設置された電子工学科の「電子管および電子回路学講座」立ち上げに当たっていました。私は岩手大学で先生の2年後輩ですが、学生の頃の先生を存じ上げませんでした。

当時の日本は戦後の復興が一段落してこれから発展しようという時期で、産業、特に工業の発展に力が入れられ、大学も工学部を中心に大きな拡張期にありました。岩手大学工学部でも昭和34年（1959年）4月に応用化学科が設置されたのを皮切りに、38年4月には機械工学第二学科、41年4月に電子工学科が設置されました。更にこの頃は、草刈 遜工学部長を中心に大学院工学研究科（修士課程）の設置が強力に進められていて、このため教官、技官の充実が図られていたと考えられます。草刈先生は工学部そして電気系学科の発展に多大な功績を残されました。現在、在学中に活躍した電気系学科の学生に卒業時に授与される「草刈賞」は、先生のお名前を冠したものです。

昭和58年のある日、熱海先生から“今度結婚するので式の司会を頼む”というお話があり、お引き受けしました。ご媒酌人は熱海先生のお母様の遠縁に当たる関 文香先生（岩手大学人文社会科学部教授）ご夫妻でした。“媒酌人挨拶”で関先生は、新婦の蛇沼牧子さんの“蛇沼家”が、岩手県北二戸地方の産業振興に多大な貢献をしたことを熱くお話になったことを覚えています。関先生は、県内で法学の勉強をした方は誰でもご存じの有名な先生でした。

思い出は戻りますが、昭和43年4月、「電子管および電子回路学講座」には入江 泰先生と熱海先生に、岩田純蔵先生（電気工学科一回卒）と佐藤清忠技術員が加わり、講座の教育研究体制が整いました。熱海先生は、学生時代に入江先生から学んだ電子回路と、その後の横河電機製作所で学んだ最先端の知識・技術をもって、後輩である学生の教育研究に当たられました。熱海先生の研究について、先生と長年一緒に学生の教育研究に携わってきた前述の佐藤清忠氏（一関高専特命教授）によると、「先生の研究テーマの一つは“電子回路のノイズ イミュニティ（noise immunity、ノイズ耐性）”に関する研究で、恒温槽などを用いて温度など外部環境が電子回路の動作に与える影響を実験的に検証し、信頼性の高い電子装置の構築を目指していました。そしてもう一つは、マイクロコンピュータが入手出来るようになった1970年

代後半から取り組んだ“万能電子回路演算素子の提案”でした。これは新しい概念による汎用電子回路設計技術の提案で、先進的な着想を感じました。ノイズイミュニティに関する研究の成果は、学術誌に英文で掲載されました」とのことでした。私も今にして思えば、熱海先生のご研究は先進的な考えに基づく故に、近くに討論できる方を見つけることが難しく、しばしば東大の山崎弘郎教授の研究室に通って討論していたことを思い出します。

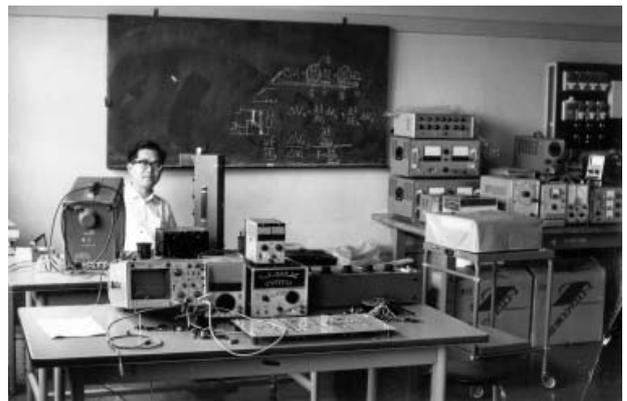
熱海先生のご指導を受けた卒業生は、“先生は決して叱咤激励して指導するのではなく、学生が自ら疑問や探求心が湧いて質問に行くと、分かりやすく教えて下さった”、と述懐しています。確かに先生は学生の自主性の発現と成長を目指し、じっくりと学生の特長・能力を伸ばしながら、教育・研究を進めていました。先生の研究室を巣立った多くの卒業生は各地で活躍していますが、様々な場面で先生の教えを思い出して困難を乗り越えてきたものと考えます。

先生はお元気な方で、いろいろなスポーツや登山を楽しんでいました。中でも昼休みに“高松の池”をランニングで一周するのを日課のようにしていたのが思い出されます。しかし、先生は令和6年（2024年）7月15日に、享年88でご逝去されました。誠に残念で寂しさを禁じ得ません。

ご無沙汰をお詫び申し上げますと共に、数々のご指導に心からお礼申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。



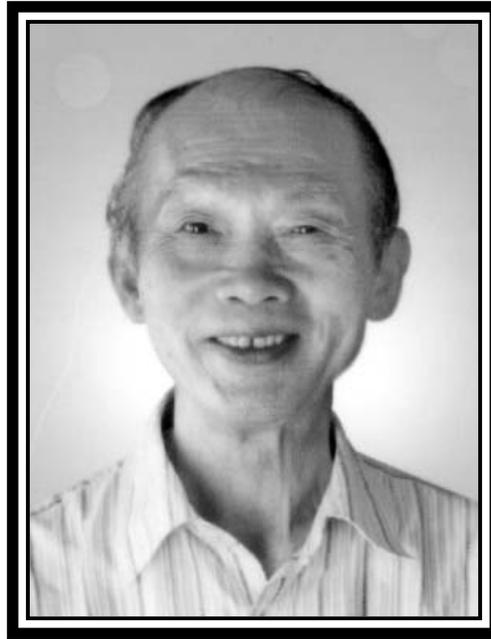
秋田駒ヶ岳の先生（昭和50年ころ）



研究室の先生（昭和43年ころ）

齋藤 弘先生を偲んで

齋藤 弘 先生



ご 略 歴

昭和11年 6月22日	盛岡で誕生
昭和30年 3月	岩手県立盛岡第二高等学校卒業
昭和30年 4月	岩手大学工学部電気工学科入学
昭和34年 3月	岩手大学工学部電気工学科卒業
昭和34年 4月	東京電子装置株式会社入社 技術部勤務
昭和36年10月 1日	同社 退社
昭和36年12月 1日	岩手大学教務員（工学部）採用
昭和38年 6月 1日	東北大学助手（工学部）
昭和42年 4月 1日	岩手大学講師（工学部）
昭和45年 4月 1日	岩手大学助教授（工学部） 岩手大学大学院工学研究科担当
平成11年 4月 1日	岩手大学教授（工学部）
平成12年 4月 1日	福祉システム工学科長
平成14年 3月31日	定年退職
令和 6年 2月 8日	逝去 享年89



齋藤 弘先生を偲ぶ

佐々木 和 彦 (昭和 44 年電気卒)

齋藤 弘先生の霊に謹んで哀悼の辞を申し上げます。

数年ほど前に先生のお体が本調子ではないとかがっておりましたが、まだまだお元気にしておられると考えておりました。最近になって先生がお亡くなりになったことを知りました。

私が齋藤弘先生にお目にかかったのは、岩手大学工学部電気工学科に入学後、学部の講義を受けた頃からです。本格的に教えを頂いたのは、昭和 43 年学部学生の 4 年生として、卒業研究で電子基礎講座に配属になって以降であります。研究室には齋藤弘先生と柏葉安兵衛先生が、また、大学院生として高萩和男氏が在籍しておられました。同期の学部学生は、石岡省蔵、伊藤英朗、井上紀明、加藤文夫、小松弘二、小松正武、女鹿泰典の諸氏で、二手に分かれて齋藤・柏葉両先生のご指導を頂きました。

齋藤先生は、当時まだ始まったばかりのレーザーの研究をされており、私共もレーザーという新しい分野の研究に興味津々でした。当時はタウンズという米国の物理学者によるアンモニア分子を使った分子メーザの論文がレーザー研究の古典でした。論文の輪講でもそれに関連した短い英語論文を読むことになる訳ですが、英語が分からないと言うよりも未知の専門用語が並んでいる事にまず辟易しました。先生は無知の私どもに怒ること無く一つ一つ丁寧に教えて下さいました。講義・実習・研究室での勉強・実験という生活パターンの中でも、研究室の様々な息抜きの行事がありました。スポーツ大会・岩手山登山なども研究室で行ったり、お茶会と称して、月末にはお茶の代わりにお酒を飲む会もあり、輪講よりも話が盛り上がりたりして楽しい思い出となっております。

私の卒論テーマは「火花放電を使ってレーザー励起の光源とする事」でした。実験装置はアルミ製回転楕円体の反射用鏡筒にある二つの焦点のうち一つに放電用ギャップを置いて放電・発光させ、他の焦点に光を集光させてそこに置いたレーザー素子を発振させるしくみでした。放電の電気的特性や放電光の光スペクトラムの特性を調べることから始まりました。回転楕円体は中央部で左右二つに分解できるのですが、分解後の開放した状態では放電の際に「バーン」という爆発的な轟音が出るので近所迷惑な装置でした。でも気分が優れないときはこれを放電させるとスカッとしましたものです。

学部卒業後も修士課程学生としてお世話になりました。テーマは同じ装置を用いて金属細線

に大電流を流して爆発させた時に出る放電光の性質を調べることでした。使う金属により発光スペクトルが異なるので様々な金属を使用しました。学部学生の村上由彦さんと二人で実験をしました。データをほぼ取り終わる頃に、測定条件を間違ってしまった事に気づき、数ヶ月分のデータを急いで再度取り直すことになり、村上さんを大変ガッカリさせました。大変申し訳ないことをしたと今でも反省しております。齋藤先生は、ニコニコされながらミスを理解して下さいました。分光器を使い写真乾板に放電光毎に発光スペクトルを撮影、そして暗室にこもって現像するのですが一人の時は歌を歌いながらやっておりました。

私は不肖の弟子でありまして、修士課程を修了して日本電気に 4 年間勤めた後も、研究生として再び齋藤先生の研究室にお世話になりました。研究生にさせて下さいとお願いした時もお怒りにもならず温かく受け入れて頂きました。久方ぶりのレーザーの実験も懐かしいだけでなく楽しいものでした。当時の学部学生・大学院生の人達ともふれあうことができ有意義な生活でした。再びレーザー発振に関係した実験をする傍ら、教育学部の聴講生もやっておりました。聴講生として教育学部の物理学、生物学、数学の講義を受けることができましたが、学部の頃にはなかなか理解できなかったことや、生物学の発展の歴史なども興味深く勉強させて頂きました。

結局私は、齋藤弘先生とは学部同期の人たちよりも随分長くお付き合いさせて頂きました。2 年間の研究生の後、縁あって岩手医大に職を得ましたが、その後小生が岩手医大の生理学講座を担当していた頃も、福祉工学科の講義の講師として何度か声をかけていただき、学生講義をさせて頂きました。また、小生が岩手医大を 65 歳で定年になった際には、立派な生花を送って頂きました。

近年も何度かお会いし、また、先生を囲む会などでお目にかかる機会もありましたが、コロナの頃趣味の山行きや魚釣などを終了しましたとの年賀状を頂いてからは、しばらくお目にかかっておりませんでした。訃報を聞いてしばし呆然と致しておりました。

先生には、長い期間にわたり大変お世話になりました。何度もご迷惑もおかけ致しました。不肖の弟子であった事を心からお詫び申し上げます。先生、どうも有り難うございました。安らかに眠り下さい。



齋藤 弘 先生の思い出

狩野 利之 (昭和61年電子卒)

昨年2月に齋藤弘先生ご逝去されたとの報に接しました。謹んで哀悼の意を表し、お世話になった学生時代を振り返りたいと思います。

私は、昭和60年度、4年生の時に齋藤先生の電子応用講座に配属になりました。光、レーザーなどに興味があり第一希望での配属で、自分を含め同期8名とともに齋藤先生にお世話になることになりました(写真参照)。その後、私は大学院修士課程の2年間を含め、昭和63年の3月修了までの3年間、研究室でご指導いただきました。

研究室での活動は、まずは、研究テーマに関連する英語の学会論文を読んだのゼミから始まりました。このゼミは齋藤先生が熱心に取り組まれており、学科内では結構有名でありました。

自分は英語自体が苦手なのに加えて、レーザーに関係する専門用語や内容の理解に苦戦していましたが、齋藤先生はとても丁寧に、かつ初歩的な質問をしてしまった時にも、あの笑顔でのご指導をいただき、レーザー工学の面白さと深さ、将来性などを感じることができました。

そのような経験やコミュニケーションを通して自分の中でこの分野への興味が高まり、齋藤先生からありがたい修士課程へのお誘いもいただいて、自分は4年生の早い時期から大学院に進学して、この分野の研究を続けることを志望することに決めました。まだまだ未熟で好奇心だけが旺盛であった自分に対して、齋藤先生はとても期待をしていると、卒業論文のテーマは、修士課程の2年間も見据えての内容のものをいただきました。卒論テーマ名は「銅蒸気レーザーの高出力化に関する研究」、修士論文は、「銅蒸気レーザーの性能向上に関する研究」とそれを発展させてまとめるテーマに取り組むこととなりました。

実際の研究においては、これまでの実験装置よりもかなり大型のレーザー管で大出力の実験装置を企画・製作することとなり、設計図を書いては先生にご相談し、試作を繰り返しました。また、それに関連しての科研費の申請を手伝わせていただいたり、先生の論文のお手伝いをさせていただいたり、先生の考えられている、理論やアイデアを形にしてみても実験で検証して、また先生に相談してと

いう日々がつづきました。

大学院に進学してまもなく、英語の論文の執筆の機会をいただき、昼夜を問わず熱心にご指導賜り、電子情報通信学会の英語版に掲載されました。

一方で、研究室ではさまざまなイベントがありました。研究室恒例のお花見、電気系学科対抗のソフトボール大会への参加・特訓、三陸や松島、女川原発などへの研修旅行、未来の東北博覧会の見学会、そして電子工学科として13年ぶりとなった不來方祭での電気展の開催、出展など。

電気展では研究で使用している銅蒸気レーザーを使ったホログラフィーの作成や展示に齋藤先生に多くのアドバイスやお力をいただきました。

このように学業はもとより、研究室での3年間はたいへん充実したものとなりました。

あらためて思い起こすと、とても懐かしく、齋藤先生の熱心なご指導や議論いただいた日々が有り難く思い出され、その後の社会人生活の礎の中心となっていたことを実感いたします。

また、ご指導の合間などには、先生のご趣味で奥様と頻繁にお出かけされていた山歩きや登山のお話をよくお聞かせいただきました、先生の穏やかで楽しそうなご様子が懐かしく思い出されます。

齋藤弘先生のご功績に敬意を表するとともに、生前のご指導に深く感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



電子応用工学研究室

前列中央が齋藤弘先生、後列右端が筆者

AI とグラフィックス

グラフィックス作家

佐藤 信（昭和57年電気卒）



東北大学、岩手大学に合計41年勤務いたしました。長い間、勤務を続けることができましたのは、温かいご支援をいただきました皆様のおかげさまであります。

ありがとうございます。

●東北大学大型計算機センター

1984年4月に東北大学大型計算機センター（現在のサイバーサイエンスセンター）の技官として勤務を始めました。日本に計算機がまだない頃、企業と大学で計算機を研究開発するために設立されたのが大型計算機センターです。

東北大学は日本電気（NEC）と開発をおこないました。開発がある段階になり、開発グループは企業に戻る方と大学に残る方に分かれました。私が採用されたのはその頃で、計算機の専門家に指導をしていただくことができました。勤務を始めた頃は、汎用大型計算機を研究者に提供していましたが、間もなく、スーパーコンピュータ、そしてUNIXが導入されました。通信は、アナログ電話回線による通信から、デジタル通信回線によるパケット通信、TCP/IPなどのネットワーク通信になりました。

計算機の運用・管理、ソフトウェアの設計開発などをおこないました。開発したソフトウエ

アのいくつかを紹介します。ジョブのトランスレータ BRUN、木構造ファイルシステムのための簡単なシェル TREE などです。BRUN は状態遷移の塊、TREE はデータ構造のアルゴリズムの塊のようなプログラムです。BRUN は、センター開発のソフトウェア（ユーザがセンターのために開発したものも含む）のなかでは、ユーザの使用回数が長い期間1、2位でした。また、大阪大学大型計算機センターなどに譲渡して使用していただきました。

センターで画像処理システムを開発したのですが、そのテストのためのソフトウェアを設計開発する機会がありました。フルカラーのディスプレイ、プリンタなどをテストするために、視覚特性を考慮した色空間を用いました。このときの経験が、現在のグラフィックスの研究に影響しています。

●岩手大学情報工学科

1991年11月に岩手大学に助手として東北大学から割愛採用していただきました。初めに、岩手大学をインターネットにネットワーク接続する作業をおこないました。岩手大学のドメイン名 iwate-u は私が決めました。複数の候補の中から最も一般的なものを選びました。接続では、東北大学で存じ上げていた方々のお世話になりました。

研究では、セキュリティ、コンカレントプログラミング、Webプログラミング、グラフィックスなどの研究をおこなっています。セキュリティでは、ゼロ知識証明による認証局を必要としない安全な通信プロトコル、当時としては新しい、加害者にならないためのセキュリティという分類方法を提案しました。研究の大部分はグラフィックスに関連したものです。

●これまでのAIとグラフィックス

形状、画像を生成、分析するためのグラフィックス手法を研究しています。2000年頃は、グラフィックスの勾配を最適化、パッチを組み合わせ最適化する手法が主流でしたが、高品質のグラフィックスの生成は困難でした。そのため、特徴の学習による生成手法の研究を始めました。深層学習が発表された2006年頃は、著者の配布コードを私の研究用に変更して実験しました。2010年台にGAN、VAEが発表されると、グラフィックスの特徴の学習をおこない、その潜在空間を探索する手法を提案しました。2020年に生成AIブームのもとになる手法が発表されました。それを基にした繊細なグラフィックスを生成する手法を研究しています。

10年ぐらい前と比較すると、論文で発表された手法の（うちの一部の）コードを入手して動作させることが簡単になっています。そのため、他分野の専門家が、自分の研究にそのようなコードを使用することが容易です。AIの難しさは、想定するデータに対して学習モデルがきちんと動作するかを判断することです。それには、深層学習より以前の知識と知恵が必要です。例えば、2001年にはニューラルネットワーク

(NN)の詳細な実験をおこなう専門書、2012年には、NNに関する主要な論文をまとめた専門書がspringerから出版されています。深層ニューラルネットワーク(DNN)の仕組みの理解には、これらの内容が役に立ちます。

現在のDNNの入門書はプログラムを動作させることに主眼があり、一般の方のためのAIの啓蒙書だと思います。AIの学習モデル、AIを用いたシステムの専門家のための入門としては、NNの理解に基づいて、DNNの新たな仕組みを理解するのがよいと思います。この10年間の学会、学内の研究発表では、基本的な点をコメントさせていただくことがあります。

●これからのAIとグラフィックス

一般の方のための入門書では、学習モデルの評価を、学習曲線、各種スコアでおこなうことが多いです。そのような方法では、評価結果がよくない場合には適切な学習がおこなわれていないことが分かるのですが、評価結果がよい場合には適切な学習がおこなわれている可能性があることが分かるだけです。

適切に学習がおこなわれると、そのモデルが対象とする未知のデータに対してモデルが適切に動作します。それを検査するには、モデルの潜在空間の構造を数理的に分析します。そのため手法の研究開発は、多く存在します。

私は、そのような手法を用いて、潜在空間の構造の数理的な分析をおこないながら、グラフィックスの学習モデルを研究開発しています。また、新手法を用いて、グラフィックス作品の制作もおこなっています。

電気電子・情報通信コースの近況

理工学科

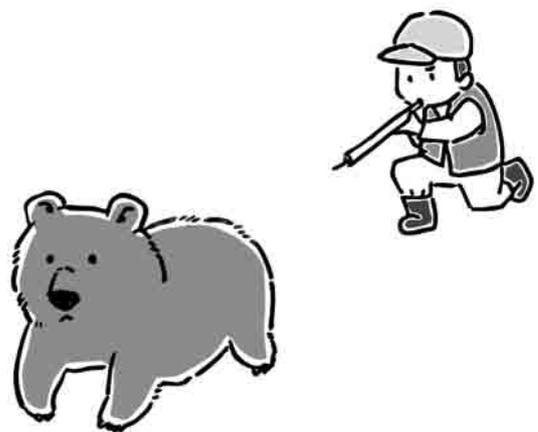
電気電子・情報通信コース長 西 館 数 芽

電気電子情報科会の皆様におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。昨年度に引き続き、関東方面への工場見学も実施されました。大学院への進学率も例年通り6割を維持する見込みです。就職に関してですが、近年、自由応募の比率が増えている印象です。マイナビやリクナビなどをつかった早い時期からの活動が目立ちます。自己PR文章の作成もAIが手助けをするようになりました。一方で会社も書類選考でAIを活用していると聞きます。もはや学生も会社もお互いAIで武装した就職戦線で戦っていて、私から見るとまるでSFの世界です。(この文章はAIで生成してはいません)

この秋、キャンパスには熊が出没しました。全国ニュースにもなったので、耳にした方もいらっしゃるでしょう。教育学部裏(第一体育館裏)の自然観察園に出没しました。安全をはかるため大学は授業を休講にし、学生に帰宅を促しました。その後、農学部裏にある付属植物園に移動したとの知らせがありました。とりあえずその近辺の門を閉じたそうです。門を閉じるということは、熊をキャンパスに閉じ込めることであって近隣住民への配慮からの判断でしょう。キャンパスにはエサとなるカキなどがなる木があって、食べ物を求めて侵入したものとおもわれます。北上川沿いにきて陸に登り自然観察園に到達したのではないのでしょうか。後日、西下台での熊目撃情報が連続しました。おそら

くそちらに逃亡していったとおもわれます。私の自宅近辺でも目撃情報が多数ありました。そればかりか岩手銀行本店地下駐車場(これは「吹き矢」にて眠らせて駆除)にも現れました。四十四田ダムを泳いでいたという話も聞きました。県外からみたら沢山の熊が町中にいると勘違いしたかもしれません。自然が豊かということですが、熊は実に危険な動物です。しかし熊を眠らせるのに「吹き矢」がこれほど効率的とは思っても見ませんでした。普段、効率重視でハイテクばかりに目を向けていますが、じつはアナログツールのほうが簡単に物事を処理できる一例と思いました。

最後になりましたが、我々教職員一同、魅力ある教育・研究プログラムの実現に向けて努力を積み重ねて参りますので、会員の皆様方におかれましては今後とも変わらぬご支援とご協力を、どうぞよろしく申し上げます。



情報系コースの近況

理工学科

情報系コース長 松山克胤

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。令和7年度の情報系コース（知能情報コース・クリエイティブ情報コース）の近況をお届けいたします。

本年度より学部改組が行われ、従来のシステム創成工学科に代わって理工学科が発足しました。情報分野は、これまでの知能・メディア情報コースの系譜を受け継ぐ知能情報コースと、新たに創設されたクリエイティブ情報コースの2コース体制となりました。両コースは「情報系コース」として一体的に運営され、AI・情報科学からデザイン工学まで、幅広い領域を包含する教育・研究体制へと発展しております。私自身は情報系コース長として、両コースが連携して円滑に運営されるよう、新体制の整備に努めております。

今年度は人事面でも大きな動きがありました。田中隆充教授が人文社会学部から着任され、情報デザイン領域の教育・研究の拡充に寄与していただくこととなりました。また、木村彰男教授、張建偉教授の昇任、游夢博准教授の昇任に加え、新たに鄒敏准教授、三上拓哉助教が着任しました。これにより、教授9名、准教授6名、助教3名の計18名という体制が整い、組織としても心機一転の活気ある一年となっております。

教育面につきましては、改組初年度であることから、今年度は1年生を対象とした基礎科目が中心となっておりますが、来年度以降は情報デザイン、データサイエンス、AIプログラミングなどの新しいカリキュラムが順次開講される予定です。これにより、従来の情報科学に加え、より創造的・横断的な学びが実現できる教育体系の整備を進めてまいります。

研究活動においても、教員・学生ともに精力的な取り組みが続いており、以下のような受賞がありました。

[1] Asia Digital Art and Design Association Best Paper Presentations

Visual Cues and Cultural Symbolism in Packaging Design Enhancing Perceived Authenticity and Purchase Decision of Thai Ready-to-Eat Green Curry in the Japanese Market
Kittiwan Triratanasirichai, Akio Kimura, Tanaka Takamitsu

[2] 2025年度電気関係学会東北支部連合大会 IEEE Sendai WIE・YP Awards “The Best Paper Prize”

• 山道里々華, 葛城玲弥, 鄒敏, 明石卓也
減色処理を用いた葉たばこの自動ラベリングにおけるL*a*b*表色系の有効性評価

[3] 公益社団法人 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門 部門若手奨励賞

• 堀田克哉, 萩原義裕, 照井周二, 佐々木誠, 岡田啓司
部分空間探索に基づくモーション再構成による乳牛の異常歩様検知

[4] 第17回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2025) 学生プレゼンテーション賞 (2件)

• Ryuichi Takahashi, Yuta Sasaki, Yuhki Shiraishi, Jianwei Zhang
Emotion Analysis of Visual Art Using a Label Distribution Learning Approach
• 谷聡馬, 張建偉
ソーシャルコンテキストの逐次解析と判別閾値の変動を用いたフェイクニュースの早期検出

[5] 情報処理学会東北支部学生奨励賞

• 片平伸吾, 滝田紘大, 張建偉
マルチモーダルな偽情報検出におけるフェイクパターンを考慮した性能評価

また、新聞報道等で既にご存じの方も多いかと存じますが、令和9年度より情報系コースの入学定員が10名増員され、そのうち5名が女子枠として募集されることが決定しております。これは、社会における高度情報専門人材の需要の高まりに応える取り組みであり、当コースとしても教育研究体制のさらなる充実に努める所存です。

以上、令和7年度の情報系コースの近況をご報告いたしました。今後とも、教職員一同、教育・研究の質の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

科会という「つながり」について思うこと

エースインタイム合同会社 代表社員
小笠原 清 人（昭和63年電気卒）



2025年6月に盛岡で開催された電気電子情報科会総会において、「元社員が語る Microsoft の中のハナシ& PC を安心して使用するためのコツ」と題し、私が30歳から

50歳まで勤めたマイクロソフトでの経験についてお話しする機会をいただきました。

60歳という節目を迎えたタイミングで、これまでの人生の中でも特に多くの時間とエネルギーを注ぎ、大きく成長できたと感じている20年間の経験を、ご出席いただいた方々にお聞きいただけたことに、あらためて深く感謝いたします。

さらに今回、会報への寄稿という貴重な機会をいただきました。

本来なら、講演テーマに沿った内容が期待されているものと思いますが、ここでは少し視点を変え、「科会」という同窓生のコミュニティについて、日頃、個人的に感じていることを書かせていただきたいと思います。

従来の慣習から外れていることについて、お詫び申し上げます。

1. Uターンして感じたこと

まずは私自身の経験からお話しします。

2022年11月、釜石で一人暮らしをしている母と共に生活するため、約30年間過ごした東京を離れ、盛岡に戻ってきました。仕事はリモートワークで継続できたため大きな支障はありませんでしたが、盛岡での生活を始めてから、「地域や人とのつながり」を新たに持つことの難しさを感じるようになりました。

具体的には以下の二つの点です。

一つ目は、これまでの仕事や経験、知識を、何かの形で地域や人の役に立てられたらと考えたものの、そのための具体的なきっかけや手段が見つからなかったことです。この点については、今も模索を続けています。

二つ目は、趣味のゴルフです。Uターン前と同じ頻度でゴルフをしたいと考えていましたが、一緒にプレーする仲間を見つけることができずに困っていました。

そのような中で手を差し伸べてくださったのが、大学院同期の伊東寿勝さんと彼の学部同期の渡邊健一さん、村田崇さんでした。

この出来事を通じて、同窓生というつながりのありがたさを、あらためて実感しました。私と同じような思いは、Uターン者に限らずあるのではないか、と想像しています。同窓生という共通点を、もう少し気軽に活かせる場があってもよいのではないかと考えるようになりました。

2. 人生100年時代と「生きがい」

人生100年時代と言われる中で、「生きがい」について語られる機会も増えています。書籍などによれば、現役世代を過ぎた後は、特に「人や地域とのつながり」が重要になると言われています。

現役世代の間は仕事を通じたつながりがあり、子育ての時期には子どもを介した関係も生まれます。しかし、その時期を過ぎると、意識的に求めなければ、つながりは次第に弱まっていくように感じます。

ゆるやかであっても人とつながっているという感覚が、生活の安心感や前向きな気持ちを支

えてくれるのも事実だと思います。

ここで強調したいのは、現在の科会の活動を変えていただきたい、ということではありません。

同じ学部、同じ系列の学科で学んだという共通のよりどころを持つ人たちが、インターネットを活用したオンラインコミュニティを通じて、ささやかな「つながり」を持てたなら、シニア世代の生きがいに限らず、さまざまなポジティブなコトが起きるのではないかと考えています。

3. ゆるくつながれる居場所としてのオンラインコミュニティ

オンラインコミュニティは、年代ごとに様々な形で効果をもたらす、ゆるやかな居場所になり得ます。

在校生にとっては、卒業後の進路や仕事について、先輩からのアドバイスや経験談を通じて、安心感が増し、視野が広がり、より学生生活が充実したものになることが期待されます。

現役世代にとっては、仕事や生活の合間に、同じ専門分野を共有する同窓生と無理なくつながり続ける手段になります。業界や技術動向についての情報交換や、自身の経験を求められたときに共有できる場もなります。

シニア世代にとっては、これまで培ってきた

経験や知識を、無理のない形で社会とつなげる場になります。関わり方を自分で選べるのが、世代を超えたつながりや生きがいを保つ一助になると考えます。

さらに、ゴルフや登山、スキーなど趣味を通じた交流が加わることで、「少し楽しい」「少し気が楽になる」居場所としての魅力も高まっていくでしょう。

最後までお読みいただきありがとうございます。

科会が、卒業生の人生のどの段階においても、そっと寄り添う居場所としてのオンラインコミュニティがあったらいいな、そんな思いを込めて、この文章を締めくくらせていただきます。

追記

この文章は、生成 AI の一つである ChatGPT を利用して完成させました。

私が文章のオリジナルを作成し、要所で ChatGPT に相談し、最終的なレビューと修正、文字数調整をお願いしました。

加えて、完成した文章の内容にふさわしい挿絵の作成にも活用しています。

生成 AI は、使い方次第で頼もしい相棒になることを体感した作業でした。



完成した文章を生成 AI に読み込ませ、内容に沿ったイラストを作成してもらいました。

左は ChatGPT、右は Copilot。それぞれに個性があり、おもしろい。



草刈賞

第20回(令和6年度)草刈賞受賞者

草刈賞を受賞して



この度、歴史と伝統ある草刈賞を受賞できましたこと、大変光栄に思います。受賞から間もなく一年、時の流れの早さを実感しております。

私は学部生時代、岩手県山岳協会と連携し、ボルダリング教室のボランティア活動に尽力してまいりました。

具体的には、クライミング施設の有無による地域格差の解消を目指した遠征教室の開催や、次世代育成のための盛岡市内の教室での継続指導に取り組みました。盛岡市は全国的にも恵まれた施設を有しますが、一方、岩手県全域に目を向けると、県内全体では体験機会に地域差があります。このギャップを埋め、より多くの方にクライミングの楽しさを知っていただくことを目指して活動を続けてきました。

知能・メディア情報コース 木谷 頼斗

現在、私は東北大学大学院で、大規模言語モデル(LLM)の内部を分析する研究に取り組んでいます。LLMは飛躍的な性能向上を果たしていますが、その動作機序には未解明な点が多々残されています。「ブラックボックス」となっている部分を緩和し、より安心して信頼性の高いLLM開発に貢献できるよう、日々研究に励んでいます。

大学院の研究においても、学部生時代に張先生にご指導いただいた研究で培った自然言語処理の知見や、論理的な思考力・分析力が大いに生きています。ボランティア活動も研究活動も、そこで培われる力の汎用性の高さを改めて日々感じております。

最後に、ボランティア活動でお世話になった岩手県山岳協会の皆様、これまで私を支えてくださった家族、先生方、友人、そして周囲の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

草刈賞について

草刈賞は、令和6年度に第20回を数えました。創設の経緯はきたかみ第50号に掲載されていますが、一部を抜粋して紹介します。

「草刈先生ご生誕100年記念実行委員会」によって「草刈賞」が設けられました。草刈先生がその基礎を築かれた電気電子工学科と情報システム工学科に学ぶ学生達に、有意義な学生生活を過ぎて頂きたいとの願いを込めた賞であります。選考のうえ、両科3名以内、計6名以内を卒業時に工学部長名で表彰することと致しました。

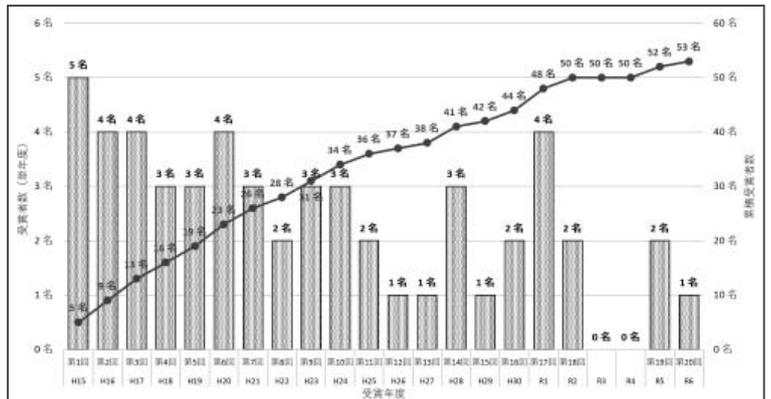
科会ではこれに先立って、教授会で卒業が認定された時点で新入正会員歓迎会をおこない、その席で被表彰者を紹介する予定であります。表彰状と記念品が贈られますが、記念品は草刈先生の肖像を模写したメダルとしてあります。この賞を通して草刈先生のご遺徳が後輩に伝達されることを願ったものであります。(きたかみ50号より)

令和3年度、4年度はコロナ禍のため、残念ながら賞を贈ることは叶いませんでしたが、これまでに延べ53名の方が授与されています。

今年度、これからの受賞者に向けて、記念メダルを追加で用意しました。草刈賞の趣旨をご理解くださり、後進のためにご寄付いただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、この賞が在校生、そしてこれから入学する学生諸氏の啓発の一助となることを、科会として願っております。



草刈賞メダル (2025年12月)



草刈賞受賞者数トレンド



ある高齢者の 昨日今日明日

金田 重憲 (昭和48年電気卒)



2025年9月、清水建設(株)の温故創新の森NOVAREを見学していましたが、知り合いの職員より「暗黙知についてOBのお話を聞きたい。」と突然声をかけられた。

退職してから15年、入社してからは50年以上経過していたが思い切って承諾し若い世代と交流でき大変有効であった。

一戸教授に「清水建設から採用募集が来ている、どうか？」

二つ返事で答えは「ハイ」。

指導の久保田先生のアドバイスは「何よりも体を大事に！」を心に東京へと列車に乗った。1973年春でした。

東京はいろんなことが興味をもて、テニス部に加入し休日も楽しんでいました。

暮れに初めて貰ったボーナスで買ったステレオから湯川れい子さんのFM放送番組から流れてきました。

「富士山に登る、そしたら次はエベレストに登る。でも、それなりの準備と時間が必要です。…」

入社して3年目、石川県手取川第一発電所土木の工事現場(75-77)、ドバイ火力発電所(77-78)、イラクバグダッド石油輸出公団事務所(79-82)、クウェート火力発電所(83-84)と20代後半から30代半ばまでは日本と中近東

を複数回往復する日々を過ごしていた。

これで一生海外勤務かと思っていたら、意外にも86年に横浜支店勤務となった。

91-96年神戸支店、96年に東京に転勤となり60歳で定年を迎えた。

その後、レンタル会社等の契約社員を経て、関東電気保安協会を最後に70歳で仕事の打ち切りとなった。

成田国際空港開港以前の羽田からドバイに飛び立った羽田が、最後の勤務地であったのは何かの縁か？

振り返れば二つの出来事、バクダッドでのイラン・イラク戦争との遭遇、西宮での阪神淡路大震災での体験は仕事を通じて生きることに大きな影響があった。

最初の現場の所長故長尾浩志さんの言葉は今でもしっかり耳に覚えている。

「俺には俺の仲間がいる、お前にもお前の仲間がいるだろう。これを合わせれば大きな輪になる。こればオレの球形理論だ。ハッハッハ！」

今は子供たちも巣だって、妻と散歩・小旅行、気の合った仲間との近くの公園、低山ハイキングで日々を送っている。

どんな小さなことでも、気にし続けていれば何とかなるものだ。

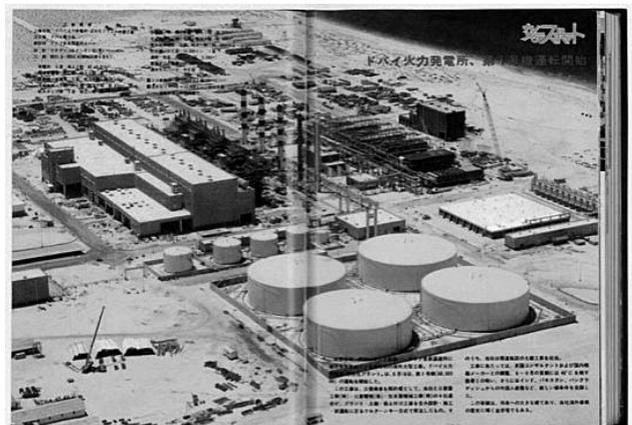
本棚の奥から定年後の仕事の手帳から

物事において原点・源点・還点に因り、短期・中期・長期に亘り対処する。

それには体感、連携、醸成、スパンを考慮することでやっていこう。



手取川第一発電所



ドバイ火力発電所

歩くことが楽しくて

中山靖茂（平成4年電気卒）

卒業してから30年以上が経ち、気がつけば健康診断の結果に一喜一憂する年頃になっていました。中には年々、数値が悪化している方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私も40歳を過ぎたあたりから、中性脂肪、血圧、血糖値がバブル期の株価のようにうなぎ上り。三大成人病のフルコンボ目前という、なかなかスリリングな状況です。

思えば、子どもの頃は野球やバスケットボールに夢中で、高校の部活では毎日7～8km走るのが当たり前の生活でした。ところが大学に入り、寮生活でお酒に親しむ日々が始まると、運動とはすっかり縁遠くなってしまいました。その影響か、寮時代から中性脂肪が高めで、不整脈もあり、入社前には職場から心臓の検査を求められたほどです。

そんな私が「このままじゃまずい！」と本気で思ったのは、45歳を過ぎた頃。ある日ふと、「そうだ、歩こう」と思い立ち、自宅から池袋までの約5kmを1時間かけて歩いてみました。これが意外と楽しくて、すっかりハマってしまいました。

自宅の近くには、かつての宿場町をつなぐ旧川越街道が通っていて、池袋までの道のりは歴史を感じながら歩ける絶好の散歩道。知的好奇心もくすぐられ、電車代も浮いて、しかも達成感まで味わえる。歩くことが、どんどん楽しくなっていました。

そうなると、自然と足は山へ向かいます。東京都の西には、埼玉や山梨と接する奥多摩の山々が広がっていて、ものの本では「東アルプス」とも呼ばれているとか。最初は高尾山（標高599m）から始め、次第に奥多摩三山（大岳山、御前山、三頭山）や東京都最高峰の雲取山（2017m）、さらには丹沢の山々へと足を伸ばすようになりました。

山歩きを続けて10年以上。体型にも変化が現れ、かつてウエストに巻きついてきた“浮き輪”のようなお肉も、いつの間にか姿を消しま

した。ただ、学生時代に染みついたお酒好きは健在で、健康診断の結果は相変わらず三大成人病の手前をキープ中。山小屋やテント泊では、必ず日本酒を担いで登り、夜は仲間と宴会。これがまた、やめられない楽しみなんです。

そんな山歩きの延長で、「ウルトラウォーキング」という競技にも出会いました。これは、制限時間内に100km以上を歩くというもの。国内には琵琶湖一周200kmという大会もあるんですよ。私は興味津々で、小田原から東京・有明までの「TXW100」や、横浜から逗子までの「三浦半島一周100km」に参加し、どちらも23時間前後で完歩しました。

大会に向けた練習として、日光街道を5日かけて踏破し、今は甲州街道を歩き始めています。また、多摩川の河口から源流までをたどり、有名な「多摩川の最初の一滴」が湧く笠取山まで歩き通しました。2016年から記録を取り始めて以来、歩いた総距離は4700km超、獲得標高はなんと31万mに達しました。「なぜそんなに歩くの？」とよく聞かれますが、うまく答えられません。ただただ、歩くのが楽しいんです。それだけなんです。

歩いてばかりの話題でしたが、先日、東京都から功労者表彰をいただきました。仕事もちょっとは頑張っているのです。



探究心を原動力に — キャリアの転機を振り返って —

若 菜 裕 紀 (平成8年電電卒)

大学在学時、私は超電導デバイスを扱う研究室に所属し、初めて研究の楽しさと難しさに向き合いました。実験は成功よりも試行錯誤のほうが多く、思い通りに進まない日々もありましたが、その過程で培われた探究心は、以後の私のキャリアを支える確かな軸となり、今日まで息づいています。

博士号取得後は超電導関連の研究機関に勤務し、超電導コンピュータに関する国家プロジェクトに携わりました。多くの研究仲間と共に議論を重ね、切磋琢磨したこの時期は、研究者としての基礎を固める非常に貴重な経験であったと感じています。

その後、日立製作所の研究開発グループへ転じ、ディスプレイ応用、有機照明、次世代太陽電池、においセンサ、産業用 AI など、基礎から応用まで幅広いテーマに携わりました。材料・デバイス特性の向上、製品適用に向けた技術課題の解決、実用化に向けた評価・検証など、多様な研究活動を経験することができ、充実した年月を過ごしました。

気がつけば15年が経ち、仕事にも環境にも大きな不満はなく、「このまま定年まで研究に携わるのだろう」と自然に考えるようになっていました。

そのような折、かつての研究仲間から連絡を受けました。「一緒に開発した超電導量子干渉素子 (SQUID) がようやく実用化し、資源探査分野で会社を立ち上げた。今後の事業拡大に向け力を貸してほしい」との誘いでした。

資源探査は私にとって全く未知の領域であり、求められる知識も業務環境も、これまでとは大きく異なります。当然ながら、安定した環境を離れることへの迷いもありました。しかし一方で、新たな領域に挑戦できる機会に、強く心が惹かれている自分がいました。「未知に向き合う姿勢」は大学時代からの私の原点であり、その精神を大切にしたいと思い、思い切って新

な道へ進む決断をいたしました。

転身後の資源探査の現場は、研究所とは大きく趣が異なります。現場作業は天候に左右され、想定外のトラブルも少なくありません。また、地質学や物理探査の基礎から学び直す必要もあり、毎日が新たな挑戦でした。しかしながら、こうした経験は私に新しい視点と成長の機会をもたらし、これまでの研究経験が異なる分野でも確かに活かせることを実感する機会ともなりました。

大学時代に培った探究心と、研究活動を通じて得た問題解決能力は、分野を越えて有効であると今も強く感じています。現在も、新たな技術や現象の理解を深め、それらを事業として具体化していくことに取り組んでいます。ご興味をお持ちの方は、どうぞお気軽にお声がけください。

最後に、本稿をお読みいただいている皆様一言申し上げます。今後の進路や取り組みについて迷われることがあれば、「ご自身の心がどの方向に動くのか」にぜひ耳を傾けてみてください。研究でも、企業での仕事でも、あるいは新たな分野への挑戦であっても、興味を持てる領域に一步踏み出すことは、きっと皆様のさらなる成長につながるものと考えております。



岩手山での地熱調査時の写真

大学での学び、思ったより役に立つ

高橋 真子（令和4年情報卒）



私は2024年に知能情報コースを修了しました。現在は機械系・電気系・情報系が連携して製品の設計・開発を行う職場で組込みソフトを作っています。

学問の細分化が進んでいるといわれる中で、この同窓会も電気電子系のコースを出た人と情報系のコースを出た人に分かれてきました。機械系のことなどにあまり触れてきておらず、まずはハードへの慣れが必要な世代ということで、職場で組込みソフトの勉強をする日々です。そんな中で「大学で学んだことがこんなにも役に立つなんて！」という瞬間や「これはソフトウェアだけ勉強していても分からなかった、こうやって物が動くのか！」という瞬間があって楽しいので、そういうことについて書いてみようと思います。

私は今、業務でC言語を使っています。大学では時間をかけてC言語の演習が行われていました。その時は「最近ではアプリ開発やwebサイトを作るような仕事に進む人が多いのでC言語を使う機会は少ない」なんて言われたりもしましたが、私の業務で使うのはほとんどがC言語。勉強したときには難しく感じたポインタや、何に使うのかわからなかった共用体なんかがたくさん使われていて、もしC言語に触れるのが初めてだったら拒絶反応が出ていたかもしれません。最近ではハードウェアマニュアルを読むところから始めて、最終的にはモータを回すという、マイコンを使った課題に取り組んでいます。レジスタの設定をして、センサの値を受け取れるようにして、タイマーを使ってPWM信号を作って、ということを経験して、大学で個別に学んだ知識同士のつながりがより

よくわかってきました。

大学での学びが役に立つ一方で、働く中で初めて体験することもたくさんあります。実機に書き込んだソフトウェアのデバッグをするとき、信号が正しく出てくるかどうか確かめることがあります。電線の被膜を剥いで器具をつなぎ、センサの信号やマイコンからの出力が狙い通りになっているか観察したりするのですが、このとき実機についている電線を傷つけてはいけません。中継用のハーネスを作る必要があります。こういったことは会社で教わるまで全く経験がありませんでした。ある日先輩に「今日は中継ハーネスづくりをします」と言われたときには、「ハーネスって犬の散歩に使うやつ？」とかアホなことを考えたくらいで、基盤につながっているそれが人の手で作れるものとは思っていませんでした。トリガーが自転車のブレーキになったハンドガンのような形の器具を渡され、失敗作を多数作成しながらも、最近では自分で中継ハーネスを作ってセンサ情報の取得ができるようになりました。さらに回路図の見方も教えてもらい、目的の信号がどこから取得できるのか、ある程度読み取れるようになってきました。

大学で学んだ事は、想像以上にいまの仕事に結び付いています。就職先が決まるまでC言語を使ってレジスタの0、1を気にしながらメカ屋さんエレキ屋さんと関わりをもって働くとは思っていませんでした。今役立っている知識の多くは、大学で講義を受けているときには「こんな細かい基礎知識みたいなこと、実際に使うことはないだろうな」と思いながら聞いていたことです。そういうことに限って、今仕事で大活躍する知識になるなんて、なんだか不思議な気分です。



支部だより



令和7年度東京支部報告

東京支部長

狩野利之（昭和61年電子卒）

■ 2025年度東京支部大会報告

令和7年(2025年)度の東京支部大会は、5月17日(土)にAP東京八重洲にて一祐会東京総会との合同開催という形で開催されました。一祐会の東京総会は、2020年の5月に約20年ぶりに計画されておりましたが、コロナ禍により中止となり、今回再設定したものです。

当日は、まず会場を分割して、当科会の東京支部大会など一祐会の5つの科会の東京支部総会を実施し、その後に仕切りを外して会場が一つになり、一祐会総会、講演会、懇親会と続きました。一祐会全体の参加者は130名、うち電気電子情報科会からは、長田理工学部長（S62電気）、柏葉相談役（S38電気）、柳橋会長（S45電子）はじめ40名の方々が参加されました。

講演会は、長田理工学部長から理工学部など大学の改組について、とてもわかりやすくお話しいただきました。

懇親会では、各科会参加者が入り混じっての交流や科会ごとの笑顔の記念撮影などで盛り上がりました。また、当科会の東京支部大会では恒例の三曲部OBの内山和彦さん（H2電子）、関優子さん（H12情報）お二人による尺八の演奏、今回は参加者全員による学生歌斉唱の伴奏をしていただきました。とても味わい深く、かつ力強い大合唱となりました。

最後は、今回出席者で最年長の柴田隆昭さん（S37電気）に歌やユーモアにとんだトークを交えた中締めでお開きとなりました。

なお、令和8年(2026年)度の東京支部大会は、場所を新宿・日本料理三平に戻して、7月11日(土)に開催の予定です。今年は暑い時期になります。皆様どうぞ暑気払いにいらしてください。



長田理工学部長ご挨拶、ご講演



電気電子情報科会の皆さん



尺八の演奏 内山さん、関さん



最年長の柴田隆昭さんの中締め

令和7年度仙台支部報告

仙台支部長

田中利光（昭和53年電気卒）

1. 仙台支部この一年

- 令和7年2月：第2回役員会及び新年会開催
- 令和7年4月：第3回役員会開催
- 令和7年6月：総会、講演会、交流の集い開催
- 令和7年7月：「岩手大学同窓会 トークカフェ in 仙台～卒業生・修了生と学長との懇談会（第17回）～」に出席
- 令和7年10月：「岩手大学ホームカミングデイ2025」に出席
- 令和7年11月：施設見学会開催（仙台市交通局地下鉄東西線荒井車両基地）

（1）支部総会及び講演会、交流の集い

令和7年6月28日（土）に総会及び講演会をハーネル仙台で、交流の集いを和食波奈仙台店で開催しました。科会本部からは柳橋会長にご出席いただき、宮城県多賀城市出身の岩手大学理工学部電気電子・情報通信コースの高橋准教授に「高電圧・プラズマとパワエレ技術で切り拓く学際的研究」と題してご講演頂きました。



仙台支部総会参加者

（2）施設見学会

昨年度はナノテラスの見学でしたが、今年度は令和7年12月に開業10周年を迎える仙台市交通局地下鉄東西線の荒井車両基地見学会を11月2日（土）に実施しました。

1時間ほどの見学会でしたが、東西線車両が

従来の電車とは異なるリニアモーター駆動であることやホームドア及び非常時対応についての説明を受けた後、実際に車両に乗り、普段は経験できない運転席に座ることができました。

今回の見学会は支部会員の家族も参加可としたため、小学生の参加も見られました。

今後も支部の活性化、会員交流のためこのような機会を作っていきたいと思います。



施設見学会参加者

2. 令和8年(2026年)の活動計画概要

- 1月：役員会及び新年会
- 4月：役員会
- 6月：令和8年度支部総会、講演会、交流の集い

3. 宮城県内在住の卒業生の皆様へ

科会仙台支部からのメールを受け取ったことはないという方、ぜひとも支部ホームページから連絡先を登録してください。支部総会他のイベントの開催案内等を連絡いたします。



- 支部ホームページ

- 連絡先（仙台支部代表メールアドレス）
iwueecsb@gmail.com

令和7年度盛岡支部報告

盛岡副支部長

吉田英夫（昭和41年電気卒）

1. 岩手県内の熊騒動

山中の熊の食糧事情（ブナ類の凶作他）なのか、はたまたアーバンベアの急増なのか、県内では熊出没が当たり前と思えるほど驚かなくなりつつあります。筆者も10月に北上川の土手を速歩ウォーキング中、パトロールの車に声をかけられ、付近に熊が出没したので帰るようにと忠告を受けました。

今年はどうなるかなと気になりますが、一説によると、母熊から冬眠の教育を受けない子熊が増え、早い時期から出没が始まり、数も多くなるかな、とのことでした。「自然との共存」が新たなステージに入ったようにも思われます。

来県の折はご注意ください。

2. 盛岡支部活動報告

令和7年度は、6月21日（土）にエスポワールいわてで支部総会、11月14日（金）に企業見学会、1月24日（土）にエスポワールいわてで新年会を行いました。

2.1 令和7年度支部総会

盛岡支部総会は、科会総会に先立って行われました。欠席された宮手支部長に代わり、理事・会計担当の伊東氏（H01電気卒）から令和6年度の事業・決算の報告を、会計監査結果を立花氏（S61情報卒）が行いました。続いて、令和7年度の事業計画・予算案を伊東氏が説明しました。いずれの議案も異議無く承認されました。

2.2 企業見学会

今年度の見学会は、滝沢市の盛岡西リサーチパークに社屋を構える株式会社小林精機さんを8名で訪問しました。同社は精密機械部品加工の企業ですが、当会会員が勤める企業との取引もある、身近な企業でもあります。

当日は、取締役 経営室長の行方様に会社のご説明をいただいた後、2班に分かれ、営業本部長の遠藤様、総務部部長の大川様に工場を案内

していただきました。同社では医療機器用部品の様な精密加工を得意としていますが、同時にインターネットから注文可能な汎用加工部品も手掛けています。

省力化へも積極的に取り組んでおり、ロボットアームによる材料自動装填の導入、自社製材料供給装置の開発も行っています。

また、経営方針に「当社の社員とその家族、取引先、地域の人々にとって素晴らしい会社であり続ける」と謳われている通り、社員への福利厚生にも力を入れているとのことでした。

例年は見学後に参加者でお茶会をしておりましたが、今年度は仕事に戻る参加者もあり実施できませんでした。次回は意見交換の場として開催できればと思います。

2.3 新年会

当日、盛岡は銀世界となり科会の皆様を出迎えてくれました。

盛岡支部の新年会は例年の慣習を守り1月後半の24日（土）エスポワールいわて3階の大広間で15時から開催しました。村田副会長の司会により淀みなく進行され、スピーチの話題も旅行、健康、過去の出逢い等々多くのテーマに上りスピーチは途切れることなく引き継がれて続けました。

また、今回のテーブル席は事務局の配慮で年齢層がシャッフルされていて各テーブルでの会話も大いに弾みました。科会の在り方関するヒントが潜んでいるかもしれません。参加者は23名でした。

参考ですが都合が合わないで不参加となられた会員30名からメッセージをいただきました。



歓談の様子
大先輩と現役学生の語り



企業訪問



新年会

令和7年度岩手大学電気電子情報科会総会

令和7年度岩手大学電気電子情報科会総会は、令和7年6月21日(土)、エスポワールいわてで開催されました。

平成3年情報卒木村彰男副会長の司会で、柳橋会長より出席された皆さんへの挨拶で始まり、知能・メディア情報コース長松山克胤教授にご祝辞を頂戴しました。

議長に平成元年電気卒渡邊健一氏、書記に平成元年電子卒伊東寿枝理事と平成2年電気卒大羽澤仁志理事が選任されて議事に入りました。

渡邊議長の進行により第1号議案から第4号議案まで事務局から説明がなされ、すべて異議なく承認されました。

第5号議案は、岩手大学理工学部の改組に伴い、令和6年11月に開催された臨時総会で追加された会則別紙の改定手続きに関する内容でした。令和6年の臨時総会

において、今後も見込まれる改組への柔軟な会則変更手続きの検討が課題として挙げられておりましたので、今年度の総会で諮ることになり、異議なく承認されました。

その他の報告として、草刈賞メダルを追加生産することが事務局より報告されました。



令和7年度 岩手大学電気電子情報科会 総会

令和7年6月21日(土) エスポワールいわて

[令和7年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録]

日時：令和7年6月21日(土) 14:00-14:40

場所：エスポワールいわて

出席者：松山克胤、柏葉安兵衛、佐藤匡、吉田英夫、久保田賢二、柳橋好子、田中利光、立花龍一、狩野利之、佐々木眞嗣、小笠原清人、伊東寿勝、渡邊健一、大羽澤仁志、村田崇、伊東寿枝、木村彰男、阿部貴美、高橋克幸、早川太一、野崎瑛慎 以上21名

議題：

1. 開会の辞

司会の木村彰男副会長より開会の辞が述べられた。

2. 会長あいさつ

柳橋好子会長より出席者へ「令和7年度予算では、支部活性化費を計上している。支部活動を活発化していきたい」旨を含むあいさつが述べられた。

3. 来賓祝辞

松山克胤知能・メディア情報コース長より祝辞が述べられた。

4. 議長及び書記選出

事務局案により、議長に盛岡支部の渡邊健一氏(H01電気)が、書記に大羽澤仁志理事(H02電気)と伊東寿枝理事(H01電子)が選出された。

5. 議案

第1号議案 令和6年度事業報告

第2号議案 令和6年度決算報告並びに会計監査報告

配布資料に基づき、事務局・伊東寿勝理事より令和6年度事業報告および令和6年度決算報告が、佐々木眞嗣会計監査より会計監査報告が行われた。審議の結果、承認された。

第3号議案 令和7年度事業計画(案)

第4号議案 令和7年度予算(案)

配布資料に基づき、事務局・伊東寿勝理事より令和7年度事業計画(案)およびの令和7年度予算(案)の説明が行われた。

支部活性化特別費について柳橋好子会長より経緯の説明があり、東京支部長・狩野利之理事及び仙台支部長・田中利光理事より、「大学や会員との交流活性化に向けた通信費・旅費」等の使途計画について説明があった。

審議の結果、資料の内容のとおり承認された。

第5号議案 会則変更

会則23条および会則別紙の改訂について、配布資料に基づき事務局・伊東寿勝理事より説明があり、資料の内容通り承認された。

6. その他

草刈賞メダルの現状と発注の提案を大学へしていくことについて事務局・高橋克幸理事より報告された。

7. 閉会の辞

司会の木村彰男副会長より閉会の辞が述べられた。

令和6～7年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(令和8年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業年学科	役職名	氏名	卒業年学科
会長	柳橋好子	S45 電子	東京支部		
副会長	立花龍一	S61 情報	幹事	吉澤和宏	S54 情報
副会長	村田崇	H02 電気	幹事	山道隆男	S62 電気
副会長・事務局	木村彰男	H03 情報	幹事	富塚秀樹	H02 電気
理事	佐藤匡	S40 電気	幹事	佐伯勇輝	H04 電気
理事	吉田英夫	S41 電気	幹事	渡邊義朝	H04 電気
理事	武田寿郎	S41 電気	幹事	阿部敦	H04 電子
理事	千葉則茂	S50 電気	幹事	内藤千寿	H06 電子
理事	恒川佳隆	S55 電気	幹事	高橋圭介	H07 電気
理事	鳥谷部達雄	S56 情報	幹事	関優子	H12 情報
理事	長田洋	S62 電気	幹事	三浦友規	H16 電電修
理事	伊東寿枝	H01 電子	盛岡支部		
理事	大羽澤仁志	H02 電気	幹事	岡英夫	S48 電子修
理事・盛岡支部長	宮手敏雄	S44 電気	幹事	池内達	S50 電子
理事・仙台支部長	田中利光	S53 電気	幹事	佐藤信	S57 電子
理事・東京支部長	狩野利之	S61 電子	幹事	佐藤文昭	S59 電子
理事・事務局	伊東寿勝	H01 電気	幹事	泉澤栄	S60 電子
理事・事務局	高橋克幸	H21 電電修	幹事	高橋康浩	S62 電気
会計監査	佐々木真嗣	S62 電子	幹事	千葉幸二	H04 情報
会計監査	大坊真洋	H11 電情博	幹事	金澤博昌	H06 情報
顧問	佐々木経夫	特	仙台支部		
顧問	藤原民也	特	幹事	加藤雅和	S49 電子
相談役(元会長)	太田原功	S30 電気	幹事	田代良二	S55 電気
相談役(元会長)	柏葉安兵衛	S38 電気	幹事	菅野丘	S63 情報
相談役(元会長)	籙福寛	S38 電気	幹事	柏葉安宏	H09 電電
相談役(元会長)	久保田賢二	S42 電気			

令和7年度 理工学科 電気電子情報系コース 教職員名簿

令和8年1月1日現在

電気電子・情報通信コース (コース長 西館数芽 教授)	
職名	氏名
教授	長田 洋
教授	小林 宏一郎
教授	大坊 真洋
教授	高木 浩一
教授	西館 数芽
教授	本間 尚樹
教授	向川 政治
准教授	秋山 雅裕
准教授	叶 榮彬
准教授	菊池 弘昭
准教授	高橋 克幸
准教授	三浦 健司
助教	阿部 貴美
助教	岩井 守生
助教	佐藤 宏明
助教	田野崎 真司
助教	村田 健太郎
事務補佐員	高橋 希

知能情報／クリエイティブ情報コース (コース長 松山克胤 教授)	
職名	氏名
教授	木村 彰男
教授	今野 晃市
教授	田中 隆充
教授	張 建偉
教授	永田 仁史
教授	萩原 義裕
教授	藤本 忠博
教授	松山 克胤
教授	山中 克久
准教授	鄒 敏
准教授	談 宜育
准教授	中谷 直司
准教授	平山 貴司
准教授	藤岡 豊太
准教授	游 夢博
助教	堀田 克哉
助教	三上 拓哉
助教	盧 忻
事務補佐員	小林 幸子
事務補佐員	懸 田 ひかる

理工学系第一技術室 (技術室長 千葉 寿)

電気電子・情報通信グループ (グループリーダー 志田寛 技術専門員)	
職名	氏名
技術専門員	志田 寛
技術職員	増山 静香
技術職員	庄司 愛子
技術職員	紺野 亮

知能・クリエイティブ情報グループ (グループリーダー 古舘守通 技術専門員)	
職名	氏名
技術専門員	古舘 守通
技術専門員	萩原 由香里
技術専門職員	藤原 歩
技術職員	平山 有沙
技術職員	藤野 圭祐

総会添付資料：理事会議事録

岩手大学電気電子情報科会 令和6年度 第1回理事会 議事録

日時 令和6年6月1日(土) 12:00～
場所 エスポワールいわて
出席者 久保田・柏葉・立花・長田・佐藤・吉田・武田・伊東・村田・大羽澤・
狩野・田中・宮手・佐々木・木村・高橋・柳橋 (17人)

1. 開会
2. 会長あいさつ
昨日から天気を心配していましたが、ちょうどいい気候となりました。
今日は総会にむけての協議があります。よろしく願います。
3. 報告
 - 1) 東京支部 狩野東京支部長
前回理事会後役員会を月1回開催、2月から5月で4回のうち2回リモート、2回対面。
3月に新正会員歓迎会参加の学生30人ほどのうち、9人が東京支部に登録した。
4月以降住所の分かった人につなげたい。東京支部大会に新人2人が参加予定。一祐会が個人情報に支出不せないと、支部大会案内を一祐会から発送してもらい、800通出した。郵便料金の値上げが予定されていて、費用面が課題。令和7年度一祐会総会、5月17日東京開催予定。5科会東京支部が協力して開催。今年の支部大会から懇親会を交流会として、講演会や情報交換の場としたい。同窓会参加者を増やすにはChatGPTを使用して方法を検討させた。
 - 2) 仙台支部 田中仙台支部長
4月20日役員会、6月8日支部総会の予定。改選期であるが、全員再選。支部総会後の懇親会を長寿を祝う会も兼ねて行う。総会案内を150人に出して返信20人。実態把握が必要だが、一祐会で発送している住所は実家なのか現住所なのか、わからない。イベントを考えて参加者を増やすためにも名簿充実が必要。
 - 3) 盛岡支部 宮手盛岡支部長
1月の新年会を旧来の方式で開催して、盛り上がりつつある。5月12日に会計監査。盛岡支部は本部以外の総会開催の年は総会を持ち越している今年度は2年分の総会。コロナも5類になったので事業所訪問を再開したい。
 - 4) 新正会員歓迎会 高橋理事
3月7日 参加者42人(新会員14人・院生13人・教員3人・会員12人)今後、歓迎会のやり方や参加者を増やす方法など早い段階で検討したい。
 - 5) 「きたかみ」70号(80周年記念特集号) 3月1日発行 5,400部
80周年特集号ではあるが、4人の方の追悼もあり、ページが増えた。
 - 6) HP 検討委員会 宮手委員長
セキュリティの検討をしていたが、今のところ弊害はないので中断。
3月20日「きたかみ」70号のうち会計と議事録以外を掲載。
 - 7) 会費検討委員会 立花委員長
第3期年会費納入願ひ発送 平成26年3月卒業までの会員 3,542人
4月末現在 納入 375人 (375万円)
 - 8) 草刈賞委員会 柏葉委員長
2月下旬に選考委員会開催、選考理由は別紙のとおり
令和5年度 草刈賞受賞者 電気電子通信コース VOVAN UT 君
電気電子通信コース 小澤 勇人君
 - 9) 役員選考委員会 柏葉委員長
次の協議で説明する
4. 協議
 - 1) 前回理事会議事録の確認
文字2カ所訂正の上 承認
 - 2) 令和6年度総会について
日時: 令和6年6月15日(土) 14:00より(13:30 盛岡支部総会)
場所: エスポワールいわて
 - A) 総会提案議案書の審議
別紙で事務局が説明 会計監査の報告
1号議案・2号議案 文言一部訂正の上、承認
3号議案・4号議案
 - 予算の支部振興費について、年会費納入初年度に以前は各支部に特別の補助(支部活性化特別費)があったが今回はないのか。例えば支部からの大学訪問の旅費や同窓会への集まりを強化したり、学生とコミュニケーションをとるために支部の経費が増える。
 - 執行部でもいろいろ議論したが、来年の年会費の集まり具合を見て検討したい。
 - 事業計画においても同窓会の実質の会員を増やすためにどうすればいいか、お金があるからするというのではなく、根本的な問題解決のために協議が必要ではないか。理想としてこうあればいいということから始めて、それに金が付随していく。個人情報保護によって、学年幹事・企業幹事が成立しなくなった。ほかの手段を考えていかなければいけない。
 - 新正会員歓迎会の場を、卒研発表後にすれば、多くの学生とコミュニケーションとれるし、各支部からも参加できるなど、方法を検討していく。
 - 同窓会はなくすることはないが継続していくためにどうすればいい

か長いスパンで考えていく。簡単ではない。

- 8月の理事会で科会の方向性の議論が必要。
5号議案(役員改選について)
柏葉選考委員長より
4月5日に選考委員会開催。 会長・事務局選考が難航。
事務局は伊東寿勝さん、会長はまだ承諾貰っていないがここで承認して総会に提案する。
新任案 会長: 柳橋好子 副会長: 木村彰男・村田崇 理事: 長田洋
理事(事務局) 伊東寿勝 相談役: 久保田賢二
それ以外は再任
- B) 総会の役割分担
司会(木村彰男) 議長(武田寿郎) 書記(高橋克幸・阿部貴美)
受付(院生2人) 懇親会司会(立花龍一)
- 5. その他
- 6. 閉会

次回理事会(予定) 令和6年8月31日(土) 12時
場所 エスポワールいわて(予定)

岩手大学電気電子情報科会 令和6年度 第2回理事会 議事録

日時 令和6年8月31日(土) 12:00～16:00
場所 エスポワールいわて
出席者 柳橋好子、柏葉安兵衛、久保田賢二、立花龍一、村田崇、木村彰男、
佐藤匡、吉田英夫、武田寿郎、宮手敏雄、田中利光、狩野利之、長田洋、
伊東寿枝、大羽澤仁志、高橋克幸、伊東寿勝 (17名)

1. 開会
2. 会長あいさつ
会長就任後の最初の仕事として、岩手大学でダイバーシティとインクルージョンをテーマとした鼎談に参加しました。近いうちにHPに掲載されると思いますので、機会がありましたらご覧下さい。
3. 報告
 - 1) 各支部報告…第1回の理事会(R6.6.1)以降の活動について報告
 - ①東京支部
R6.6.22(土)に支部大会を開催。現地39名、リモート4名が参加。新体制後の最初の支部大会ということで、柳橋会長にもお越しいただいた。また、柏葉相談役、田中仙台支部長、講演の講師・大坊先生にも参加いただいた。
日比谷に盛岡市の東京事務所があり、そこを起点に情報交換しており、支部大会にはその盛岡市の事務所の方にも参加いただき、交流した。
今回の支部大会では、“懇親会”の名称を“交流会”に変更し、“総会”・“講演会”・“交流会”という構成にした。
今回は、新卒の方2名にも参加いただいた。3月の新会員歓迎会に参加した学生にQRコードを配布し、科会東京支部への登録を要請したが、27名中9名が登録した。このうちの2名が参加した。なお、新卒者は参加費無料にした。
参加者数は、コロナ禍前の60～70名に対し、今回は43名で少しづつ回復している。
東京支部では、毎回学生歌を含め4曲を歌うが、今回はOBの方の尺八を伴奏に使用したが、なかなか味のある感じになった。
他科との交流ということで、機械、金属の支部総会に参加しているが、当日はそちらからも参加者があった。
支部役員会を6月16日に開催。
その他に、“岩手大学同窓会トークカフェ in 東京”に参加。全体で80名くらいの参加者があったが、科会からは7名が参加した。
 - ②仙台支部
6月8日に支部総会開催。前会長の久保田先生に参加いただいた。残念なことに参加者はほぼ役員のみで10名程度であった。
7月13日に支部役員会を開催し、活性化について議論した。(ChatGPTを活用し、マインドマップでまとめた資料を作成。理事会参加者に配布。)
仙台支部でも、“懇親会”の名称は若い会員が参加し辛いことを考慮し、“交流の集い”に名称を変えて前回から開催している。
参加者が少ないという課題に対し、「告知不足」、「スケジュールが合わない」、「興味関心がない」といった要因が挙げられた。
告知不足は、会員の連絡先を支部として把握できておらず、連絡ができていないという現状がある。これに対しては、一祐会、科会本部と連携し、支部として連絡できる体制を充実していきたい。
興味・関心のなさについては、参加の動機付け方法をいくつか挙げていく。それぞれの実行可否を含めて次回の総会計画にむけて検討していきたい。
対策の一つとしてコミュニティ強化を挙げており、(総会によらず)定期的に会員が親睦を図る機会を作ることを考えているが、その様なニーズの有無や、総会に参加しづらい理由などをアンケート収集してみたいと考えている。その結果を踏まえて今後の活動内容を計画していきたい。
 - ③盛岡支部
6月15日の総会開催前に支部総会を開催した。
盛岡支部のイベントとして、例年企業訪問を実施していたが、コロナ

禍により中止していた。今年は5類に移行したこともあり、支部総会時に開催したい旨を報告した。
訪問候補先としては、IBC 岩手放送さん、ミクニさんが挙げられた。これまで、工場（製造現場）に近い企業を選定してきたので、今年はミクニさんに依頼する予定である。総会に参加していた、平成元年電気卒の渡邊健一さんに打診したところ、見学は歓迎しますとのことだった。皆さん（理事会出席者）の意見を聞いて、依存が無ければミクニさんに連絡したい。★ 理事会出席者一同異議無し ★
ミクニさんは自動車関連産業なので、3連休のどこか1日が操業している可能性もある。確認する。

例年1月下旬に実施している新年会は今年度も例年通り実施する予定。

2) その他

特になし。

4. 協議

1) 議事録の確認

①令和6年度第1回理事会議事録の確認

一部修正の上承認。

②令和6年度総会議事録の確認

一部修正の上承認。

2) 令和6年度事業計画について

①会誌「きたかみ」第71号について

編集委員の選定

⇒ 会長、副会長、事務局、各委員長とする。

掲載内容の確認（山崎相談役・熱海先生追悼記事、支部寄稿、他）

⇒ 追悼記事（山崎相談役、熱海先生）

⇒ 支部寄稿は（順番として）盛岡支部が担当する。

きたかみの予算について

きたかみの費用は従来と同じで問題ないか？

⇒ ギリギリ今のページ数を維持できると考えている。

②ホームページ運営委員会について

6月1日の理事会以降の報告：

・7月10日に総会の概略を掲載した。本日の理事会で総会議事録が承認されたので、今後少し詳しい内容に更新する。

・7月15日に山崎相談役、同26日に熱海先生の訃報を掲載した。

・プロフィールの役員名簿を更新した。

役員には“幹事”もあるが、HPには掲載していない。掲載の是非を審議したい。

⇒ 幹事は掲載しない。

・サーバーのデータ容量は昨日（8月30日）現在で416MB。

・アクセスカウンターは、6月1日以降3.6アクセス/日。

・科会連絡メールアドレス（Gmail）への問い合わせは、6月1日以前は総会に関する問い合わせがあったが、それ以降はゼロ。

・https対応

一祐会のHPでは未対応。当会でも当面様子見としたいかいかか？

⇒ 現状問題が生じていないので、維持する。

・HPの“ご挨拶”の内容について

旗福先生が継続して掲載されていることにコメントをいただくケースがある。

⇒ 当該ページでは、“ホームページ開設時 会長”と記載されているので、理屈の上では問題無いが、今後の対応については検討する。（本日の理事会では深掘りしない。）

③新正会員歓迎会の開催について

開催日時について検討したが最終決定には至らず、11月の「きたかみ」編集委員会の中で結論を出すことになった。なお、方向性としては、卒論発表日を候補としている。大きな課題として、情報の学生に向けた周知と参加推進が挙げられた。

以下、協議の中で出た報告・意見を記載する。

・コロナ禍の影響もあり、4年間歓迎会を実施できない期間があったこともあり、学生も過去の様子を聞く先輩が存在せず、歓迎会そのものが「何なんだ、それは？」という状況になっている。

・卒論発表は、9:00～16:00に実施される。例えば、卒論発表後、一祐会館で科会活動について学生に紹介する場を設け、その後歓迎会を実施するというのはどうか。

・ただし、発表会の日程は情報と電気で異なり、通常は情報が早い。実施する場合には遅い方に合わせることになる。この場合、発表会の日程が早い学生には十分な周知が為されない。（情報は2月中旬、電気は2月下旬～3月上旬）

・電気は全てが終了してから、全員を対象に講評を行うが、情報の卒論発表は3つの会場で同時進行し、会場毎に解散する。電気の様子に学生を集めることは難しい。コース内での教員のコンセンサスを得るところから開始する必要がある。

・一方で、電気、情報の全ての学生が参加した場合、会場としている学生生協には入りきらないという問題もある。

・（厳密な意味で）卒業が確定していない学生を参加させることになるので、“新正会員歓迎会”という名称については検討が必要。これまでもロジカルに整合性を謀ってきているので、不整合の無いような名称変更にする必要がある。

・卒論発表日の決定が12月なので、歓迎会の開催日についてもそれまでに決定する必要がある。

④草刈賞委員会の活動について

決定事項：

・再度見積りを取り、1月の理事会に諮る。見積り取得は、高橋先生が担当する。（長田先生から引き継ぐ）

・令和8年（2026年）3月までにはメダルを追加生産する。

・メダルに記載する学部名称については、改めて議論する。

以下、協議の中で出た報告・意見を記載する。

・メダル残数は8個であり、おそらく2年分（令和6年度および令和7年度授与分）。従って、令和8年3月までに追加生産が必要。

・大学側で管理している寄付金等が約183万円。科会での積立金が約102万円。これらの両方を使うと追加生産の予算捻出は可能と思われる。

・ただし、何年分（何個）用意するのか、等、いろいろと検討すべき課題がある。

・検討課題の1つにデザインがある。現在のものは（改組前にデザインされたものであり）「工学部」と記載されている。

・草刈賞の賞状は、授与者として「理工学部長」と記載している。

・初回生産時は60個であるが、6個/年×10年を想定した数。（事務局注：実際には20年分になった。）

・次回20年分（＝60個）生産したとしても、20年後に大学がどうなっているか、現時点では見通しがつかない。

・大学の名称も変わっているかもしれないが、記憶に残すためにも「工学部」のままにしておくというのも一案である。

・デザイン（学部名称）については、受賞者に説明できるストーリーが必要。

・当日の参加者の意見は「工学部」の継承への賛同が多かったが、後日改めて協議する。

⑤会費検討委員会の活動について

年会費納入実績報告：

総会以降の年会費の入金は59名。今年度中にとあと300名程度入金してもらえることを期待しており、各所での声かけをお願いしたい。

※令和7年度岩手大学理工学部改組に関連した、準会員の対象の見直しは、“⑦規約（会則）の見直しについて”を参照。

⑥科会活動の活性化について（第1回理事会からの継続協議）

具体的なアクションアイテムの決定には至らなかったが、課題の共有およびアクションアイテム案が挙げられた。本件は継続審議する。（以下に列挙）

・実態の把握を最優先課題とする。

・科会で把握している連絡先が減少しているが、具体的に増やす手段が無い。連絡先拡充が重要課題である。

⑦規約（会則）の見直しについて（事務局発議）

決定事項：

・令和6年11月23日（土）に臨時総会を開催する。

・臨時総会の案内は、科会HPに掲載する。

・規約改定案は事務局で作成する。改定対象は第2条（改組による対象学科学科名称追記のため）、第3条（金融機関への届け出時に必要な住所記載のため）

・対象クラスに入学し、2年への進級時に対象外コースに進んだ学生には入会費を返却する。

・他クラスから対象コースに進級した学生には入会費を払ってもらう。

・対象クラスは、「情報系クラス」、「電気電子・情報通信クラス」とする。

・データサイエンス応用オープンクラスに入学した学生は、対象コースに進級する率が高いと予測されるが、対象コースとはせず、コース進級時に入会費を払ってもらう。

5. その他

1) 科会役員メーリングリスト作成について（事務局発議）

決定事項：

・配信漏れ予防のため、メーリングリスト（ML）を作成する。後日事務局より招待メールを配信する。

6. 閉会

岩手大学電気電子情報科会 令和6年度 第3回理事会 議事録

日 時 令和7年1月25日（土） 13:00～15:00

場 所 ホテルニューカーナ

出席者 柳橋好子、柏葉安兵衛、久保田賢二、立花龍一、村田崇、佐藤匡、

吉田英夫、武田寿郎、宮手敏雄、田中利光、狩野利之、伊東寿枝、

大羽澤仁志、伊東寿勝（14名）

1. 開会

2. 会長あいさつ

年が明けましたが、1月らしくない天気で、もうすぐ桜が咲きそうだと思います。

20年間事務局をしていて、事務局任期中は着物を着るのは難しいので、事務局を退任したら着る機会があるかもという話を誰かに話したので、今日は頑張って着てきました。今日は協議する内容が沢山ありますが、この後新年会も控えていて、時間が限られていますので、効率の良い運営にご協力をお願いします。

3. 報告

1) 各支部報告…第2回の理事会（R6.8.31）以降の活動について報告

①東京支部

1月12日の13時から15時の2時間、zoomで賀詞交換会を開催した。

参加者は25名。大学からは柏葉先生と村田先生が参加。賀詞交歓会は参加者の近況報告がメインだが、H4年電子卒加瀬さんに人工衛星のドッキングに使用するレーザー測距について話せる範囲で紹介してもらった。

村田先生から、1月24日開催された情報通信学会東北支部の講演会で、NTTドコモの吉澤相談役が岩手大学を会場に講演するというアナウンスがあった。

他科会との交流として、秋口に建設系のきたかみ会と化学系の三好会の総会に参加した。

東京支部役員会は毎月参加可能なメンバーでリモート開催しているが、12月は対面で忘年会を兼ねて開催した。

令和7年の一祐会総会が東京で開催されるため、その準備を進めている。一祐会の藤田会長、小野寺事務局長、事務局の小田島さんと、11月および1月に打合せした。次月は現地メンバーで会場下見と打合せを予定している。

メルマガの配信頻度を上げている。9月に村田先生から情報を入力し、電子情報通信学会の会誌に掲載された村田先生の記事を紹介した。また、岩手盛岡冬旅フェスタの情報も配信した。次週はちやぐちやぐ馬っこのクラウドファンディングの期限について配信予定で準備中。盛岡市の東京事務所と連携して情報を得るなどして、会員への配信頻度を上げたい。

②仙台北支部

支部活動活性化に関する調査を、支部会員に対するアンケートで実施した。残念ながら、アンケートの返信は19名で、寂しい結果となった。技術交流を目的として、11月12日に東北大学構内にあるナノテラスを見学した。平日だったこともあり、参加者は7名だった。通常の見学時間は1時間だが、質問が多く、超過した。リタイアした会員よりも、現役世代が見学できればより有益だった。

2月1日に役員会および新年会を予定している。その後は、4月に役員会、6月28日に支部総会を予定している。

総会に向け、これまでメールでしか案内していなかったのが、宮城県内在住会員に連絡すべく、一祐会に問い合わせたところ、613名の連絡先(住所)を持っているとのこと。一祐会に依頼すると10円/人で宛名シール(タックシール)を作ってくれるとのことなので、これから送付範囲を検討する。

③盛岡支部

本日15時30分から新年会があります。残念ながら、今年は長田先生、木村先生、高橋先生共にそれぞれ公私の所用により参加できず、全員で16名となった。

昨年から企業見学会を再開し、11月にミクニさんを訪問した。

今後は、6月に支部総会を予定している。

2) その他

特になし。

4. 協議

1) 議事録の確認

①令和6年度第2回理事会議事録の確認

時間の都合で読み合わせは省略。後日気づき事項があったら事務局に連絡することにした。

②令和6年度臨時総会議事録の確認

承認。(補足:本議事録はきたかみ第71号に掲載する)臨時総会でも話題に挙がった、改組への対応の容易化については、今後事務局で検討し、次年度理事会で協議できる様提案する。

2) 令和6年度事業計画について

①会誌「きたかみ」第71号について

•きたかみの進捗について
若干集まっていない原稿があるが、届いた原稿は阿部膳写真堂さんに送付済みで、1回目の校正原稿を受領し、関係者に確認を依頼した。

•綴じ込みはがきについて
返却率は0.1%未満と低いので、廃止案が出たが、見積では価格が変わらないとのことなので、今回は継続する。将来的には廃止を検討する。数は少ないが、近況を送ってくれる方も居るので、廃止に際しては考慮する。

•googleフォームを使用した総会参加連絡方法の採用について
令和7年度総会は、従来の方法(はがき、メール、等)に加え、googleフォームも併用する。
入力された情報の開示については別途検討する。ある人の参加表明が呼び水になることへの期待がある。一方、情報開示を望まない人が存在するかもしれないことへの配慮も必要と思われる。東京支部では開示にあたり、メールアドレスは載らないよう工夫している。

②ホームページ運営委員会について

•Googlegroupでの科会メールアドレス(iwate_ddj_kakai@googlegroups.com)を登録済み。このメールアドレスには、HP運営委員長の宮手支部長、事務局(木村副会長、高橋理事、伊東)の3名を登録する。(木村副会長、高橋理事は当日欠席だったが、後日了解を得て登録した。)
•科会HPの構成に“docs”のディレクトリを追加する。まずは科会会費納入の振込用紙への記載方法の説明文書をアップする。

•SSLへの対応が可能になった。
対応後のアドレスは、「https://fukura.ne.jp/ddj-kakai/」となる。
アクセスカウンターが使えなくなっていたので、fukura.netのカウンターに切り替えた。
きたかみの表紙に掲載しているQRコードのリンク先も新アドレス

に切り替える。

•アクセス数は84件/日。臨時総会の関連で増えたと思われる。

③新正会員歓迎会の開催について

決定事項:

•電気電子通信コースの会議で、同コースの卒業研究発表会(2月28日)のコース長講評の後に科会の説明会を開催することで承諾を得た。説明会開催後、理工学部食堂にて新会員歓迎会を開催する。なお、卒業研究発表会は秘密保持に関する同意書にサインの上聴講可能。
•科会の説明会は、①会長挨拶(5分)、②科会説明(高橋理事・10分)、③各支部の案内(各支部長・各5分)の計30分程度を想定し、詳細は今後協議する。

•なお、知能情報コースの卒業研究発表会(2月14日)はコース長による講評(学生全員が集まる場)が無いため、科会説明は実施されない。
•歓迎会の開始時間は、18時を予定する。(後日の協議で変更の可能性あり。)

以下、協議の中で出た質疑応答・報告・意見を記載する。

•Q:学生は全員参加か?

A:科会説明会はコース長講評後に続けて実施するので、全員参加すると思われるが、歓迎会は任意となる見込み。

•Q:知能・メディア情報コースの学生に科会説明する場は無いのか?

A:残念ながら無い。

•Q:歓迎会の中でできないか?

A:必要と考える。ただし、電気電子通信コースの学生には重複情報となるので、内容等は検討が必要。

•Q:会員へ案内するにあたり、時間の情報が必要。

A:まだ詳細は決まっていない。今後協議する。

④草刈賞委員会の活動について

決定事項:

•メダル追加発注の件は、見積未了のため先送りする。(次回理事会で協議する。)

•科会からの選考委員は、柏葉相談役、柳橋会長とする。

•令和7年に改組があるが、同年以降の入学生において、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、電気電子・情報通信コースの3コースを草刈賞選考対象コースとする。

以下、協議の中で出た報告・意見を記載する。

•次年度以降の選考委員は交替していただくことを条件として引き受け。(柏葉相談役)

•メダルの残数は6個。あと1年は在庫対応可能と思われる。

•岡本さま(草刈先生のご子息。柏葉相談役の同期。)より生前に10万円の寄付があったが、ご逝去後に奥様より50万円の寄付があった。

⑤会費検討委員会の活動について

報告:

•きたかみ71号に同梱する会費納入依頼用紙は1月24日に発注済み。

•累積で461名に納入いただいた。令和6年5月2日までに375名。その後(令和6年度)に86名に納入いただいた。

•令和7年入学生予定学生からの入会費が14名分納入された。

以下、協議の中で出た報告・意見を記載する。
•会費納入依頼用紙であるならば、多色刷りにするのが望ましい。単色刷りにするのであれば、記載内容は依頼ではなく、事務的な手続きとするのが望ましい。

•きたかみ70号に同梱して会費納入を依頼した人数が3,542名。秋に一祐会から受領したリストでは3,538名。4名が諸事情によりリストから外れた。

⑥科会活動の活性化について(継続協議)

今回の理事会では具体的な施策についての協議はなかったが、以下の情報を共有した。一祐会で所有している、あるいは今後収集する連絡先を科会として共有・利用の可否がポイントになる。

•会員への連絡手段について。会費納入の振込用紙において、メールアドレス記入者は210名(45.6%)、電話番号記入者は411名(89.2%)、住所記入者は428名(92.8%)。

•令和7年度の一祐会総会を予定しており、東京支部も共同で準備を進めている。参加申込みをGoogleフォームを用いて実施する予定で、それを通してメールで連絡可能な会員を増やす予定だが、一祐会総会参加申込みで集める連絡先を科会が共有可能なのが現時点では不明確。

•東京支部でメールアドレスを把握しているのは400名弱。一祐会でメールアドレスを把握している関東エリアの電気電子情報系会員は284名。

•職場のメールアドレスを登録している方には、個人アドレスに切り替えていただくよう継続的に依頼が必要。

•一祐会との打合せで得られた情報について、可能な範囲で文書化して共有する。

5. その他

1) 令和7年総会時の講演会依頼先

決定事項:

•昭和63年電気卒小笠原清人氏に依頼することを決定した。

6. 閉会

令和7年 年表

1/12	東京支部 賀詞交換会 Zoomによるリモート開催
1/21	令和6年度第3回理事会前打合せ 兼 第3回きたかみ編集委員会 於：岩手大学理工学部 / 柳橋会長，柏葉相談役，村田副会長，木村副会長，宮手支部長，伊東理事
1/25	令和6年度第3回理事会 於：ホテルニューカリーナ / 会長，副会長，相談役，理事（計14名）
1/25	盛岡支部 新年会 於：ホテルニューカリーナ（計16名）
1/26	東京支部役員会
1/28-29	令和7年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）第2期入学者選抜試験《令和7年4月入学》
1/30	令和7年度大学院理工学研究科（博士課程）第2期入学者選抜試験《令和7年4月入学》
2/1	仙台支部 第2回役員会，新年会
2/2	入学願書受付締切。理工学科電気電子・情報通信クラス：前期1.4倍，後期5.5倍，同情報系クラス：前期1.4倍，後期6.0倍
2/12	草刈賞選考委員会 於：岩手大学理工学部 選考委員 電子通信コース：西館数芽（コース長），高橋克幸 知能・メディア情報コース：山中克久（コース長），木村彰男 電気電子情報科会：柳橋好子（会長），柏葉安兵衛（相談役・選考委員長）
2/12	令和7年新正会員歓迎会準備会合 於：岩手大学理工学部 / 柳橋会長，柏葉相談役
2/12	「きたかみ」第71号校了
2/14	知能・メディア情報コース 卒業研究発表会
2/18	大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）知能情報コース 修士論文審査発表会
2/22	東京支部役員会
2/25	令和7年度理工学部 一般選抜個別学力検査 前期日程
2/28	電気電子通信コース 卒業研究発表会
2/28	新正会員歓迎会 参加者104名（新会員68名，院生10名，教員15名，会員12名）
3/1	「きたかみ」第71号発行5,400部
3/12	令和7年度理工学部 一般選抜個別学力検査 後期日程
3/15	東京支部役員会
3/23	岩手大学学位記授与式 理工学部システム創成工学科卒業生：電気電子通信コース59名，知能・メディア情報コース55名 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程修了生：電気電子通信コース33名，知能情報コース20名 大学院理工学研究科システム創成工学専攻博士課程修了生：電気電子情報系分野の該当者はなし
3/31	知能・メディア情報コース 佐藤信助教 定年退職
4/1	岩手大学改組 理工学部は1学科制に再編（理工学科），旧電気電子通信コースは電気電子・情報通信コースに，旧知能・メディア情報コースは知能情報コースとクリエイティブ情報コースにそれぞれ再編
4/1	田中隆充教授が人文社会科学部からクリエイティブ情報コースに異動
4/1	鄒敏氏を知能情報コース准教授として採用
4/1	游夢博氏がクリエイティブ情報コース准教授に昇任
4/7	岩手大学入学式 理工学部理工学科入学生：電気電子・情報通信クラス69名（うち総合型選抜I3名），同情報系クラス70名（うち総合型選抜II5名） 3年次編入学生：電気電子通信コース2名，知能・メディア情報コース5名 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生：電気電子通信コース48名，知能情報コース18名 大学院理工学研究科システム創成工学専攻博士課程入学生：電気電子通信工学分野3名，知能情報工学分野1名
4/19	仙台支部 第3回役員会
4/26	東京支部役員会
5/17	東京支部大会 於：AP東京八重洲（一祐会東京総会開催と連携）
5/17	盛岡・つなぎ間ロードレース大会（岩手大学学生，教職員参加）
5/19-23	理工学部前期授業一般公開
5/27	会計監査 於：岩手大学理工学部 / 柳橋会長，佐々木会計監査，大坊会計監査，伊東理事
5/29	令和7年度第1回理事会前打合せ 於：岩手大学理工学部 / 柳橋会長，柏葉相談役，村田副会長，木村副会長，高橋理事，伊東理事

6/7	令和7年度第1回理事会 於:エスポワールいわて/会長, 副会長, 相談役, 理事, 会計監査(計16名)
6/21	盛岡支部総会
6/21	令和7年度総会, 講演会, 懇親会 於:エスポワールいわて(計21名) 令和6年度事業報告, 決算報告, 会計監査報告, 令和7年度事業計画, 予算, 会則変更
6/28	仙台支部総会, 講演会, 交流の集い
7/1	木村彰男氏が知能情報コース教授に昇任
7/2	令和8年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)推薦入学者選抜試験《令和8年4月入学》
7/29-30	岩手大学理工学部アカデミックインターンシップ2025
8/5	岩手大学オープンキャンパス
8/20-22	令和7年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《令和7年10月入学》 令和8年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《令和8年4月入学》 令和7年度大学院理工学研究科(博士課程)入学者選抜試験《令和7年10月入学》 令和8年度大学院理工学研究科(博士課程)入学者選抜試験《令和8年4月入学》
8/24	東京支部役員会
8/27	令和7年度第2回理事会前打合せ 於:岩手大学理工学部/柏葉相談役, 村田副会長, 木村副会長, 高橋理事, 伊東理事
8/30	令和7年度第2回理事会 於:エスポワールいわて/副会長, 相談役, 理事(計13名)
9/上	令和8年度理工学部総合型選抜I入学試験(第1次書類選考)
9/24	電気電子通信コース ソフトボール大会
9/25	令和7年度岩手大学修了式・卒業式(農業教育資料館) 理工学部卒業生:電気電子通信コース1名 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程修了生:電気電子情報系コースの該当者はなし 大学院理工学研究科システム創成工学専攻博士課程:電気電子通信工学分野1名
9/27	東京支部役員会
10/1	三上拓哉氏をクリエイティブ情報コース助教として採用
10/1	岩手大学入学式(令和7年度10月入学者) 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生:電気電子通信コース 該当者なし, 知能情報コース 該当者なし 大学院理工学研究科システム工学専攻博士課程入学生:電気電子通信工学分野 該当者なし, 知能情報工学分野1名
10/2	令和8年度理工学部総合型選抜I入学試験(第2次選考)
10/2	令和8年度理工学部総合型選抜II(クリエイティブ情報コース)プレゼンテーション試験
10/18-19	第76回岩手大学不來方祭
10/25	東京支部役員会
11/1	張建偉氏が知能情報コース教授に昇任
11/2	仙台支部 施設見学会(仙台市交通局地下鉄東西線荒井車両基地)
11/10-14	理工学部後期授業一般公開
11/11	「きたかみ」第72号 第1回編集委員会 於:岩手大学理工学部/柳橋会長, 柏葉相談役, 立花副会長, 村田副会長, 吉田盛岡副支部長, 伊東理事
11/11	大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)知能情報コース1年次中間発表会(ポスター発表形式)
11/14	盛岡支部 企業見学会 株式会社小林精機
11/14, 26	大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)知能情報コース修士論文予備審査会《令和8年3月修了予定者》(分野別に実施)
11/19	令和8年度岩手大学理工学部学校推薦型選抜入学試験
11/22	東京支部役員会
12/14	東京支部役員会
12/17	「きたかみ」第72号 第2回編集委員会 於:岩手大学理工学部/柳橋会長, 柏葉相談役, 木村副会長, 吉田盛岡副支部長, 田中仙台支部長(リモート参加), 狩野東京支部長(リモート参加), 高橋理事, 伊東理事
12/20	令和7年度第2回情報処理学会東北支部研究会(於 岩手大学)

岩手大学電気電子情報科会会則

- 第1章 総 則**
- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気電子情報系工学科並びに岩手大学理工学部電気電子情報系コース及びクラス、大学院工学研究科電気電子情報系工学専攻並びに岩手大学大学院電気電子情報系コースの傘下に集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 岩手大学理工学部電気電子情報系コースおよび岩手大学大学院電気電子情報系コースは別紙に定める。
- 第4条 本会の本部事務所は盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学理工学部電気電子情報系コースに置く。
- 第5条 本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第6条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。
- 第2章 会 員**
- 第7条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第8条 特別会員は岩手大学工学部電気電子情報系工学科、岩手大学理工学部電気電子情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第9条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気電子情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気電子情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気電子情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気電子情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第10条 準会員は岩手大学工学部電気電子情報系工学科及び岩手大学理工学部電気電子情報系コース及びクラスの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気電子情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気電子情報系コース学生のうち正会員でない者とする。
- 第3章 会 計**
- 第11条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
- 第12条 基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第13条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第14条 ただし、クラスに所属する準会員が、当会が定めた電気電子情報系コース以外に進級した場合は入会金を返納する。
- 第15条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。
- 第4章 会 議**
- 第16条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
- 第17条 理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。
- 第18条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第19条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第20条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。
- 第5章 役 員**
- 第21条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|-----|------|---------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。 |
| | | 尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
- 会計監査 2名 正会員より選出する。
- 幹 事 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。
- 顧 問 若干名 特別会員より会長がこれを委嘱する。
- 相談役 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。
- 第17条 各役員は任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
- 第18条 但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第19条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
- 第20条 副会長は会長を補佐する。
- 第21条 理事は本会の庶務を掌理する。
- 第22条 会計監査は会計を監査する。
- 第23条 事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
- 第24条 幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第25条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。
- 第6章 会誌、講演会及び座談会**
- 第26条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第27条 講演会及び座談会は随時行う。
- 第28条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第29条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。ただし、本会則2条に定める別紙は、総会決議のみならず、理事会での協議、承認により改定できるものとする。理事会承認により変更された場合は総会で報告する義務を負う。
- 付 則**
- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
- (昭和17年1月1日制定) (平成11年度総会一部改定)
- (昭和25年度総会一部改定) (平成12年度総会一部改定)
- (昭和37年度総会一部改定) (平成15年度総会一部改定)
- (昭和40年度総会一部改定) (平成20年度総会一部改定)
- (昭和41年度総会一部改定) (平成21年度総会一部改定)
- (昭和46年度総会一部改定) (平成22年度総会一部改定)
- (昭和50年度総会一部改定) (平成27年度総会一部改定)
- (昭和51年度総会一部改定) (平成28年度総会一部改定)
- (昭和56年度総会一部改定) (令和6年度臨時総会一部改定)
- (平成4年度総会一部改定) (令和7年度総会一部改定)

岩手大学電気電子情報科会会則 別紙

本会則における岩手大学理工学部電気電子情報系コース及びクラスは次の通り定める。

岩手大学理工学部システム創成工学科
電気電子通信コース
知能・メディア情報コース

岩手大学理工学部理工学科
知能情報コース／クリエイティブ情報コース／情報クラス
電気電子・情報通信コース／電気電子・情報通信クラス

本会則における岩手大学大学院電気電子情報系コースは次の通り定める。

岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻
電気電子通信コース
知能情報コース

別紙改定履歴
(令和6年度臨時総会制定)
(令和7年度総会一部改定)

「きたかみ」72号トピックス

2025年は熊年だった？ と思いたくなるほど、連日熊被害の報道がありました。柳橋会長のご挨拶でも触れておられたとおり、岩手大学や盛岡市中央通りにも出没し、まさに神出鬼没の有様でした。

冬が来て寝静まったかと思いきや、ポツリポツリと出没情報が続いています。2026年1月3日には安比高原スキー場で目撃され、リフトが運休したそうです。これからは、冬でもくま対策が必要な時代なのでしょう。

くま騒動が続いていた初冬、岩手大学出身の栗和田さんから村田副会長にアプリ「くまブザー」の情報がもたらされました。持てる技術を社会貢献に活かそうという、頼もしい同窓生です。

「くまブザー」は、①目撃情報をアプリで入力、②半径5km以内の目撃情報をプッシュ通知で受領、という助け合いのアプリです。互助により被害が無くなることを願っています。

栗和田さんが開発した「くまブザー」はこちら(<https://www.kumabuzzer.org/>)から入手できます。このアプリは、2026年1月12日の岩手日報にて紹介されましたので、ご覧になった方もたくさんおられると思います。同社の岩手日報ONLINEでもご覧いただけます。



くまブザー



編集後記

きたかみ72号をお届けします。

短い期間で原稿を準備していただいた寄稿者の皆様に御礼申し上げます。また、いつもながらタイトなスケジュールで編集を進めていただきました、阿部謄写堂さんにも感謝いたします。

編集委員会は盛岡開催のため、これまで近隣にお住まいの方で構成されておりましたが、今号ではZOOMを使用し、盛岡・仙台・東京の3拠点を繋げた活動ができました。コロナ禍は多くのマイナスをもたらしましたが、技術の発展は人間の英知がそれに負けないということを感じさせてくれます。当会の会員の皆さんが従事しておられる仕事も社会に貢献するものが多いのだろうと想像すると、うれしい感情が湧いてきます。

科会・支部の総会・大会では、短い時間ではありますが、技術の発展に尽力なされてきた会員の方からご講演いただき、培ってきた知見の一端をご披露いただいておりますので、機会がございましたら是非足を運んでいただければと思います。特に、これから貢献が期待される若い世代の方は、諸先輩の知見を遠慮せずにご覧いただける良い機会だと思いますので、ご一考ください。

編集委員

- 柳橋好子 (会長：昭和45年電子卒)
- 柏葉安兵衛 (相談役：昭和38年電気卒)
- 吉田英夫 (理事・盛岡副支部長：昭和41年電気卒)
- 田中利光 (理事・仙台支部長：昭和53年電気卒)
- 立花龍一 (副会長：昭和61年情報卒)
- 狩野利之 (理事・東京支部長：昭和61年電子卒)
- 村田崇 (副会長：平成2年電気卒)
- 木村彰男 (副会長・事務局：平成3年情報卒)
- 高橋克幸 (事務局：平成21年電電修了)
- 伊東寿勝 (事務局：平成元年電気卒)

きたかみ 第72号

発行日 令和8年3月1日
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号
岩手大学理工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎ 019-621-6460
印刷所 (株)阿部謄写堂
盛岡市本町通2丁目8番37号
☎ 019-623-2361

令和8年度岩手大学電気電子情報科会総会並びに 懇親会開催のご案内

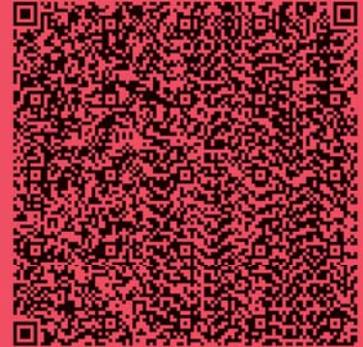
令和8年度岩手大学電気電子情報科会総会を下記の通り開催いたします。お忙しいとは存じますが、多数のご出席をお待ちしております。

ご出席いただける方は、電子メール、電話、はがきにて、令和8年6月7日(日)までに科会事務局へお知らせください。

日	時：令和8年6月20日(土)
	受付 13:00
	盛岡支部総会 13:45～14:00
	総会 14:00～15:00
	講演会 15:00～16:00
	写真撮影 16:00～16:30
	懇親会 16:30～18:30



総会参加フォーム



総会参加連絡メール用QR

場 所：エスポワールいわて
盛岡市中央通り1丁目1-38 電話 019-623-6251

議 案：1. 令和7年度事業報告、決算・監査報告
2. 令和8年度事業計画案、予算案の審議
3. 役員改選
4. その他

講 演 会：演題「真空管ギターアンプの製作について」
講師：赤木篤久氏（AKG工房代表 平成3年電子卒）

懇親会会費：6,500円(予定)《懇親会席上で昨年秋・今年春に叙勲された方をご紹介します、敬意を表します。叙勲された方をご存じの方はお知らせください。》

連 絡 先：総会の出欠を含め、各種ご連絡は電子メール、電話、はがきでお願いします。本頁に掲載しているQRコードからGoogleフォーム経由、もしくは電子メールでご連絡いただくこともできます。

岩手大学電気電子情報科会 E-mail: iwate_ddj_kakai@googlegroups.com
岩手大学電気電子情報科会事務局 (岩手大学理工学部内)
電気電子・情報通信コース担当 高橋 克幸 019-621-6460
情報系コース担当 木村 彰男 019-621-6488
庶務会計・学外担当 伊東 寿勝 090-6742-8261 (ご注意: 非通知の電話は受信できません)

東京支部大会

日時：2026年(令和8年)7月11日(土)
場所：新宿 三平(支部大会、講演会、交流会)
サンパークビル7F

次第：14:00-14:30 東京支部大会
14:30-15:30 講演会
16:00-18:00 交流会



参加フォーム

東京支部の皆様には別途ご案内いたします。

参加フォーム URL <https://x.gd/evPx3>
連絡先: iwatet@googlegroups.com
担当: 事務局長 加瀬貞二

仙台支部総会

日時：2026年6月開催予定
場所：未定

開催要項は仙台支部へメールアドレスを登録の方へ4月頃に別途ご案内いたします。



仙台支部HP

連絡先: iwueecsb@gmail.com

メールアドレス登録・更新のお願い

日頃より会員の皆様には電気電子情報科会（以下、科会と記す）の事業に際し多大なるご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。従来、科会事業のご案内は、郵便はがきや電子メールにて差し上げておりましたが、2024年10月の大幅な郵便料金の値上げもあり、今後は電子メールでの案内に軸足を移さざるを得ない状況となっております。

つきましては、電子メールアドレスを科会にご登録いただいておられない会員の皆様におかれましては、是非ともこの機にご登録いただきたくお願いする次第です。

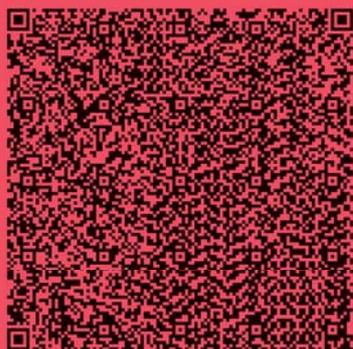
また、既に電子メールアドレスをご登録いただいております会員の皆様におかれましても、必要に応じてご変更いただけますと幸いです。

昨今、科会からのご案内を差し上げた折に、配信エラーとなるケースが散見されております。既にご使用になられていない、あるいは近い将来使用されなくなるメールアドレスを登録されておられる場合、ご変更いただけますようお願い申し上げます。

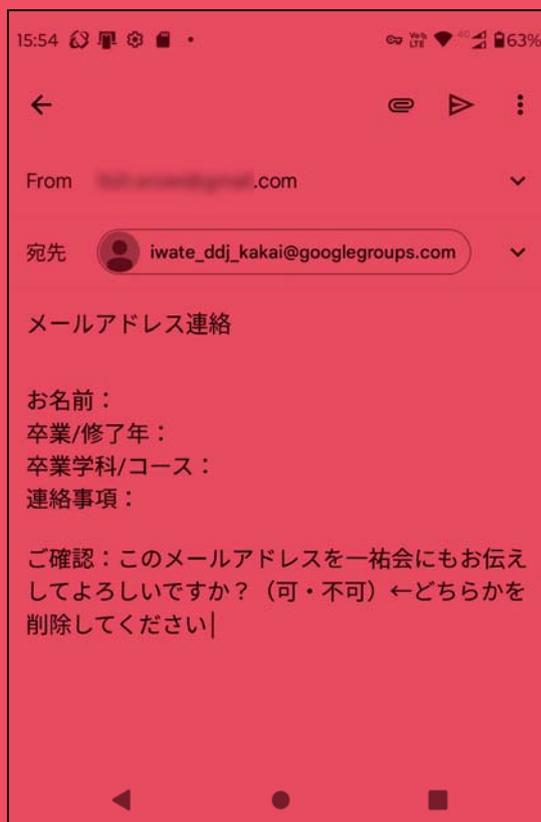
お預かりしたメールアドレスは、科会（ご同意いただいた場合、科会及び一祐会）からのお知らせ以外には使用いたしません。

ご登録・更新は、科会メールアドレス（iwate_ddj_kakai@googlegroups.com）までお願いします。下記 QR コードは、科会メールアドレスへの送信フォームとなっておりますので、利用ください。

現在ご登録中のメールアドレスが不明な場合も上記科会メールアドレスまでお問合せください。



メールアドレス連絡用メール



QR コードをデコードした画面

メールアドレスをお持ちでない会員の皆様には、可能な限り郵送でのお知らせを続けてまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。